

第2章 幸せ感について

(1) 幸せ感の点数とその点数を選んだ理由 (問1)

問1 あなたは現在幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。あてはまる数字(点数)を選んでください。【〇は1つ】

① 幸せの点数

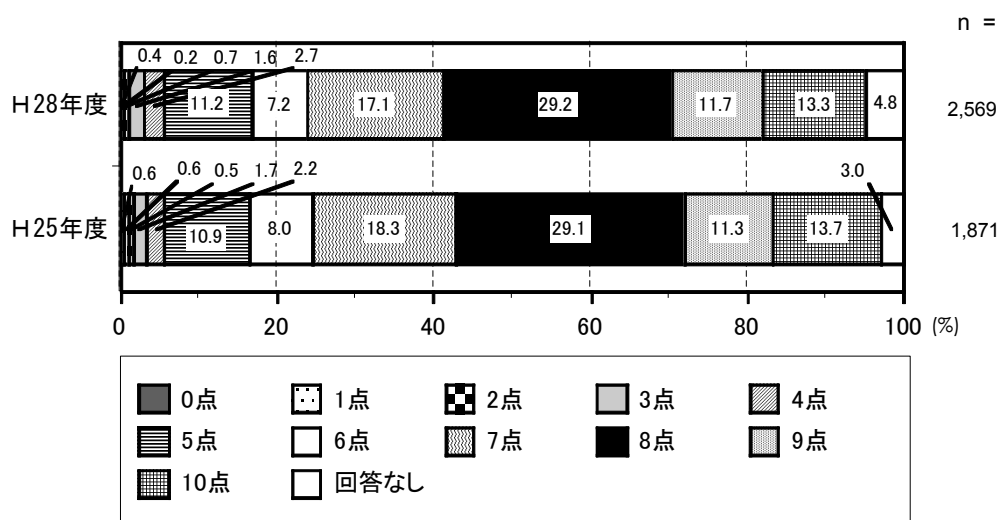
要点

幸せ感の点数は、「8点」が29.2%と最も多く、次いで「7点」(17.1%)、「10点」(13.3%)と続いており、全体平均の点数は、7.44点となっています。性別では、男性よりも女性の方が、年齢では、30歳代の点数がそれぞれ高くなっています。全般的に平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません。

全体

- 0点～10点の11段階で現在の幸せ感をたずねたところ、「8点」が29.2%と最も多く、次いで「7点」(17.1%)、「10点」(13.3%)と続いています(図2-1-1)。
- 全体平均は、7.44点です(図2-1-2)。
- 6点以上が全体の8割弱、7点以上が7割以上を占めており、本市における回答者の幸せ感が高い水準にあるといえます。
- 幸せ感が4点以下という市民は5.6%みられます。また、0点という市民もわずかとはいえ0.4%みられます。
- 平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません(図2-1-1)。

図2-1-1 幸せ感の点数 (前回比較)

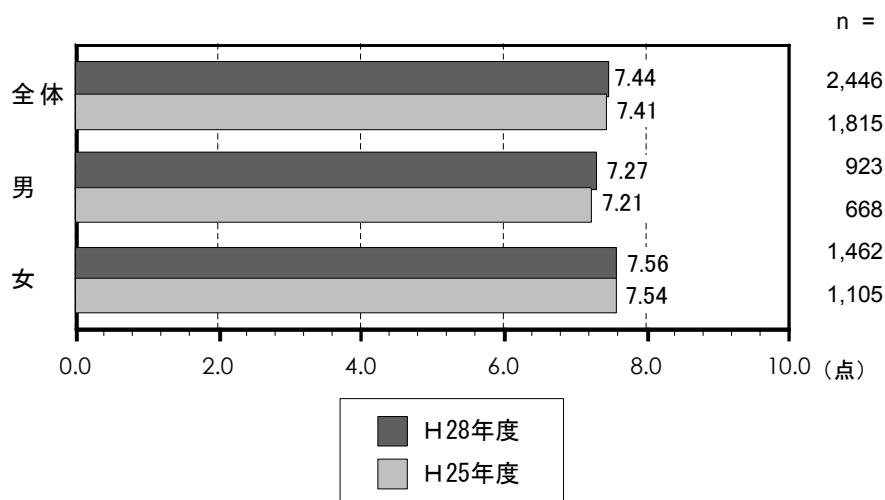


性別

○性別でみると、女性の方が男性よりも幸せ感の点数が若干高くなっていますが、全国的に見ても同様の傾向です。

○また、男女ともに平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図2-1-2）。

図2-1-2 性別 「幸せ感の点数」（前回比較）

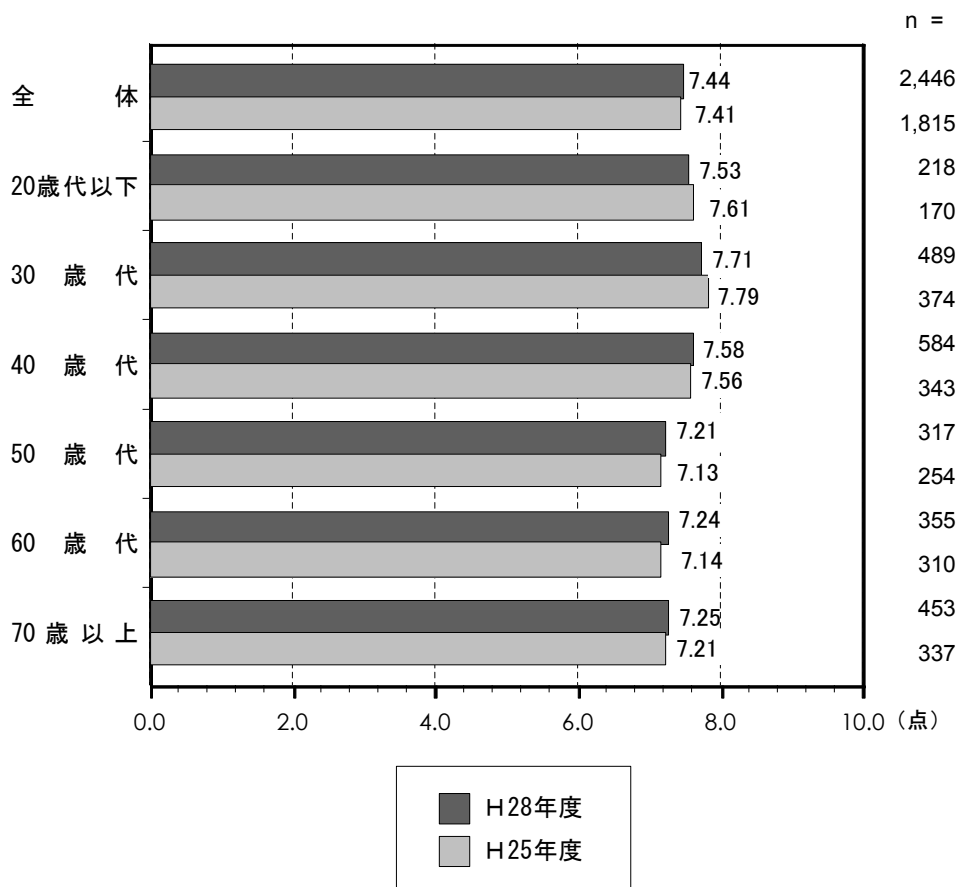


年齢別

○年齢別でみると、30歳代の幸せ感が7.71点と、全体よりも0.27点上回っています。その一方で、50歳代以上の幸せ感の点数は、全体よりも若干低くなっています。

○どの年齢層においても、平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図2-1-3）。

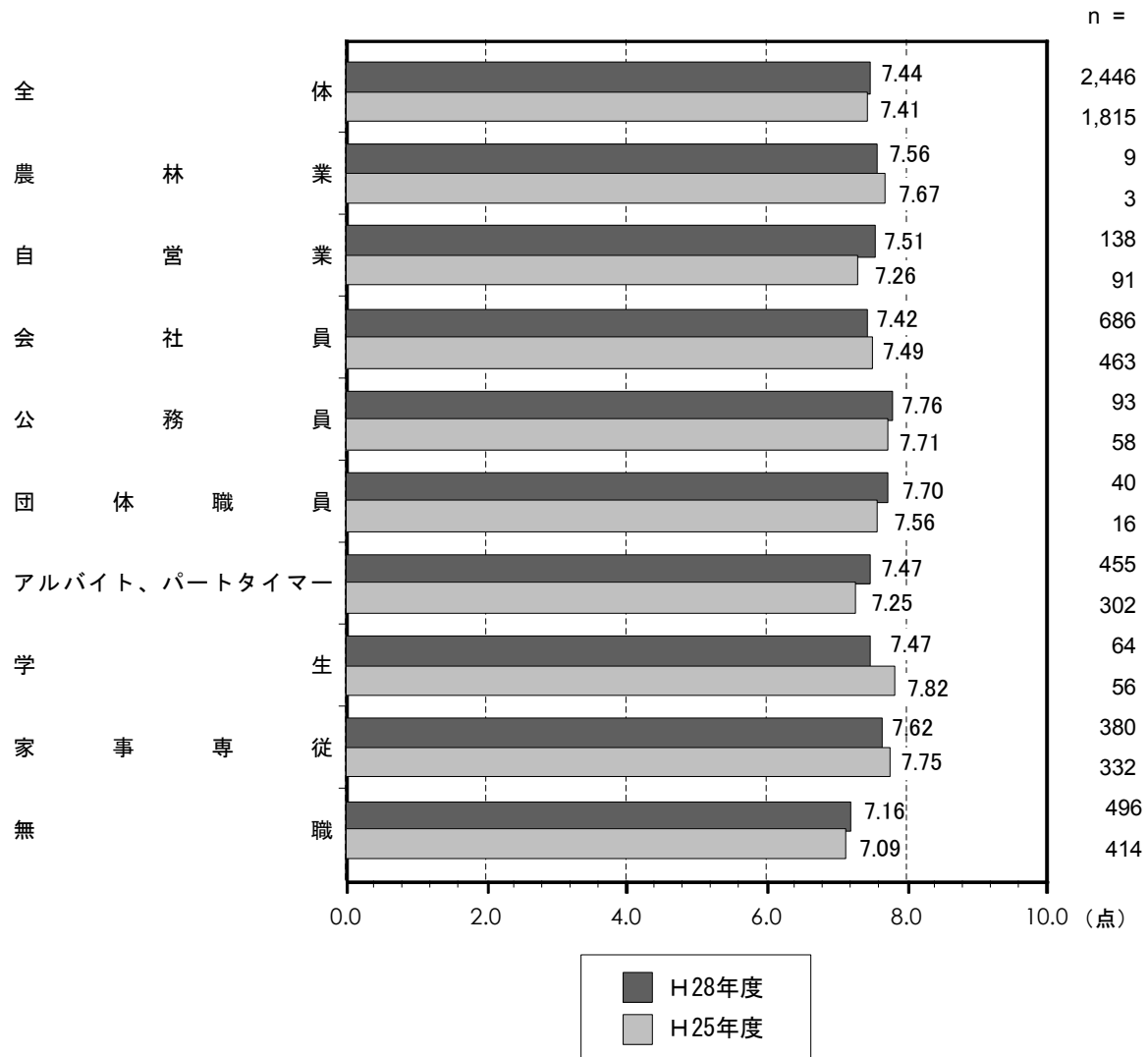
図2-1-3 年齢別 「幸せ感の点数」（前回比較）



○職業別でみると、「公務員」(7.76 点)をはじめ、「団体職員」(7.70 点)や「家事専従者」(7.62 点)の幸せ感が全体値と比べて若干高くなっている一方で、「無職」(7.16 点)の幸せ感が若干低くなっています。

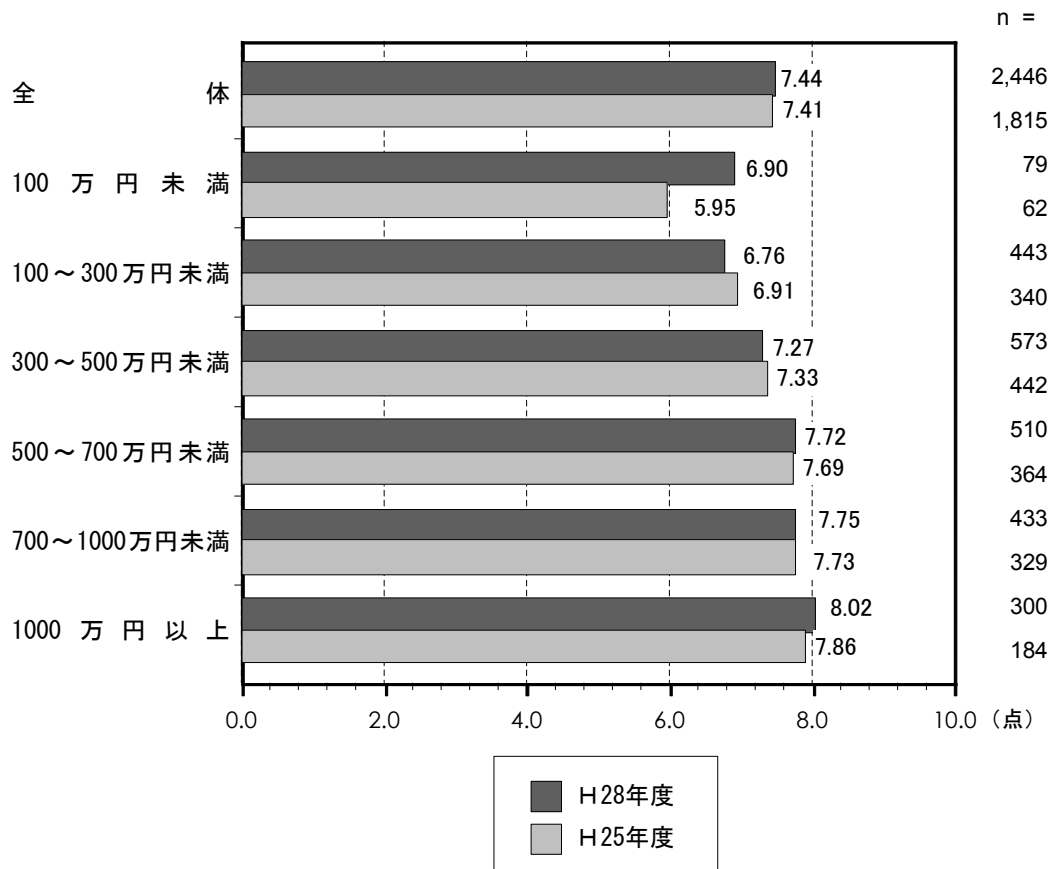
○平成25年度調査結果と比べて僅かな変化がみられる程度でほとんど差異はみられません(図2-1-4)。

図2-1-4 職業別 「幸せ感の点数」(前回比較)



- 家庭の年収別にみると、「100万円未満」と「100～300万円未満」で逆転現象がみられるものの、年収が高いほど、幸せ感の点数が高くなる正比例の傾向がみられます。ただし、年収が500万円を超えると幸せ感の変化は小さくなる傾向があります。
- 平成25年度調査結果に比べて、「100万円未満」の市民については幸せ感が0.95点上がっていることが特徴としてみられます（図2-1-5）。

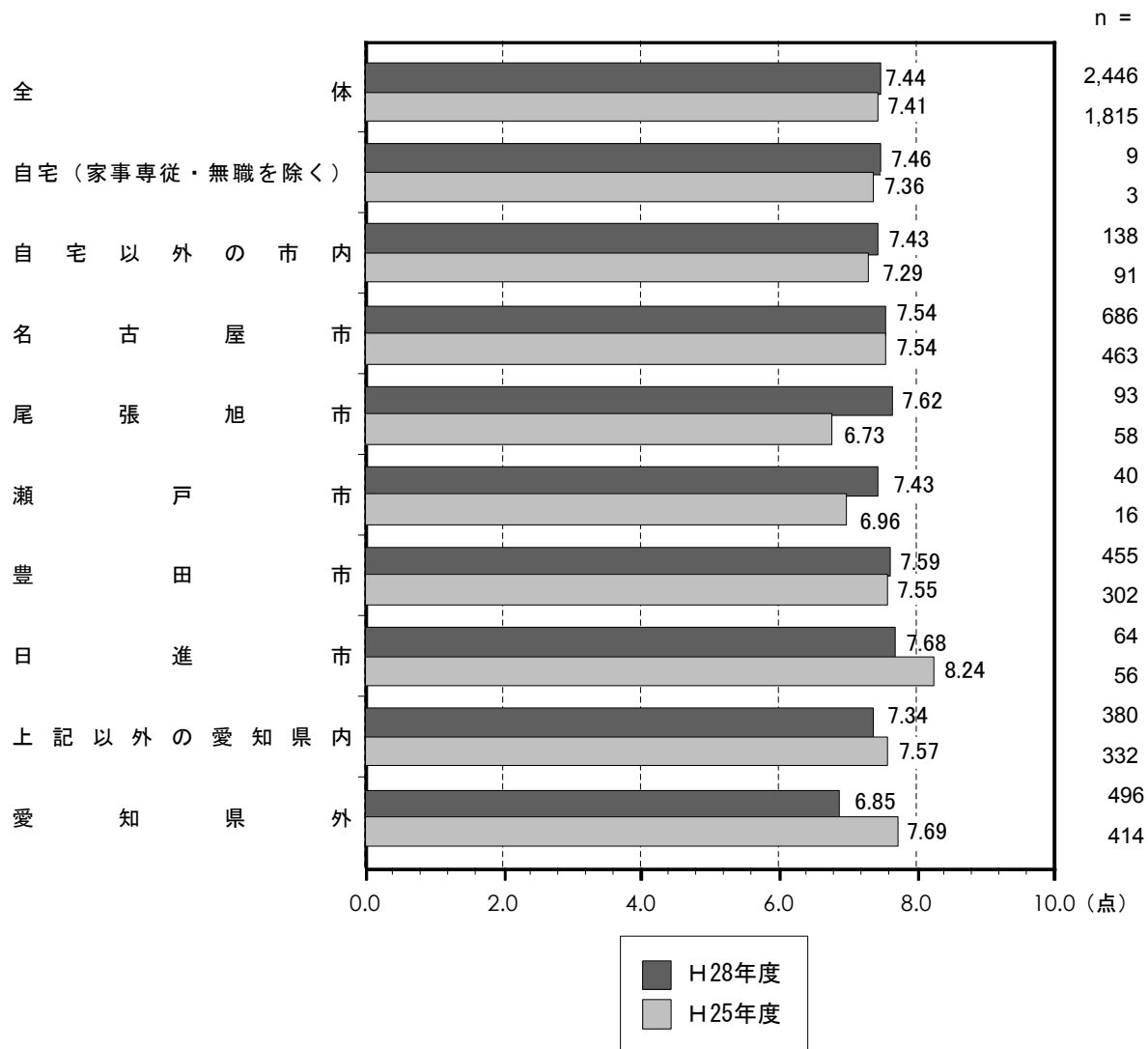
図2-1-5 家庭の収入別 「幸せ感の点数」（前回比較）



○通勤・通学先別にみると、愛知県外に通勤・通学している市民の幸せ感が全体よりも低くなっています。また、平成25年度調査結果に比べて、幸せ感が0.84点低下しています（図2-1-6）。

○なお、尾張旭市や瀬戸市に通勤・通学している市民の幸せ感が平成25年度よりも上昇し、逆に日進市に通勤・通学している市民の幸せ感が低下していますが、いずれもサンプル数があまり多くないことから有意な差があるとまではいえないと思われます。

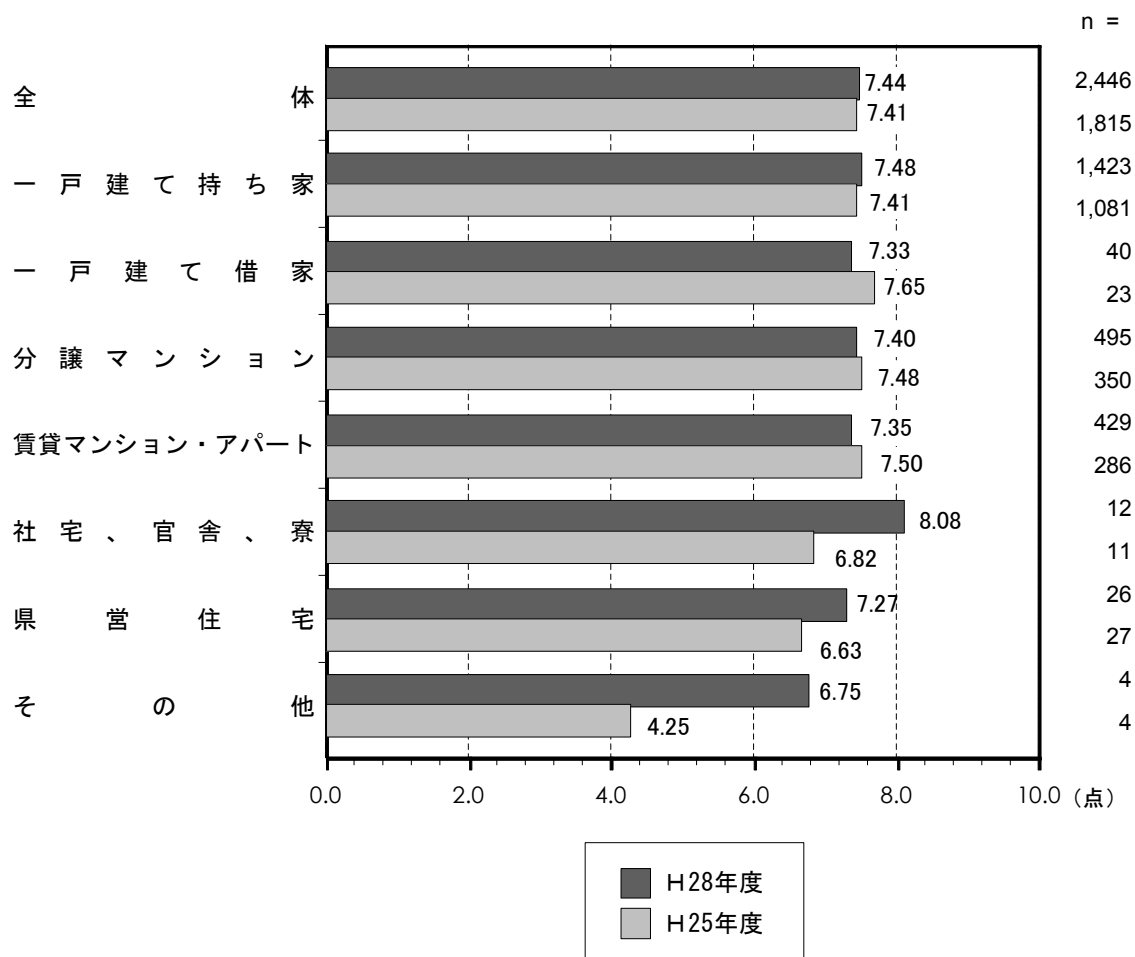
図2-1-6 通勤・通学先別 「幸せ感の点数」 （前回比較）



○住まいのタイプによって幸せ感に多少の差異があるものの、有意な差があるまでとはいえない結果です。

○また、平成25年度調査結果に比べて、「社宅・官舎・寮」や「その他」の幸せ感が上昇していますが、いずれもサンプル数が少ないため、有意な差があるまでとはいえないと思われます（図2-1-7）。

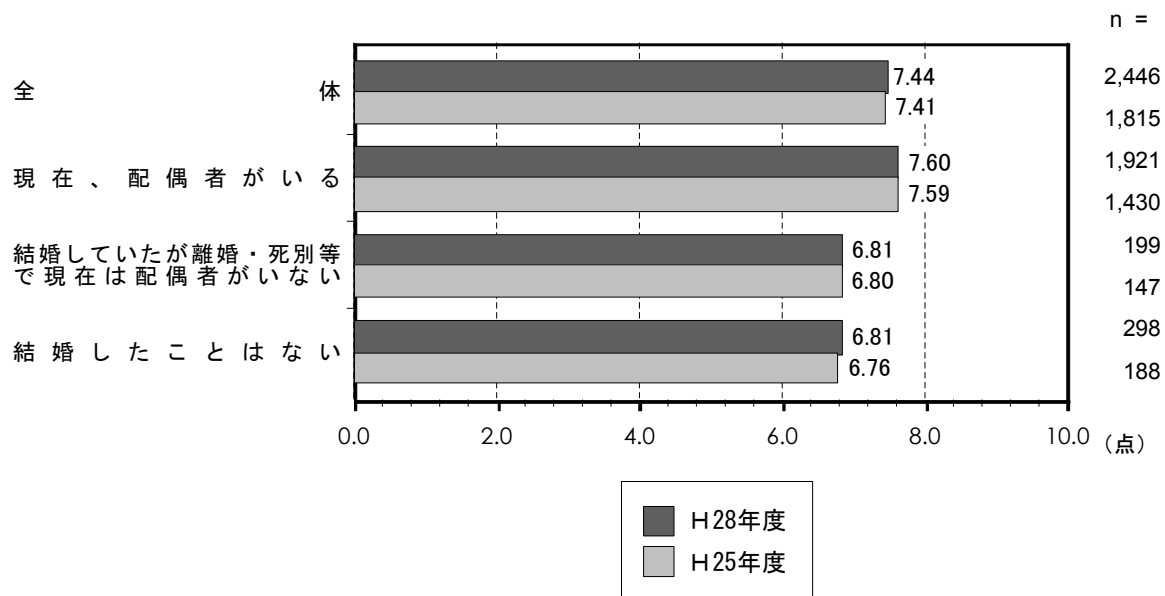
図2-1-7 住まいのタイプ別 「幸せ感の点数」（前回比較）



○配偶者の有無別でみると、「現在、配偶者がいる」市民の幸せ感（7.60）は、全体より若干高くなっている。一方で、「結婚していたが離婚・死別等で現在は配偶者がいない」市民の幸せ感（6.81点）や「結婚したことはない」市民の幸せ感（6.81点）は、全体よりも低くなっており、配偶者の存在は幸せ感の重要な要素の一つであると考えられます。

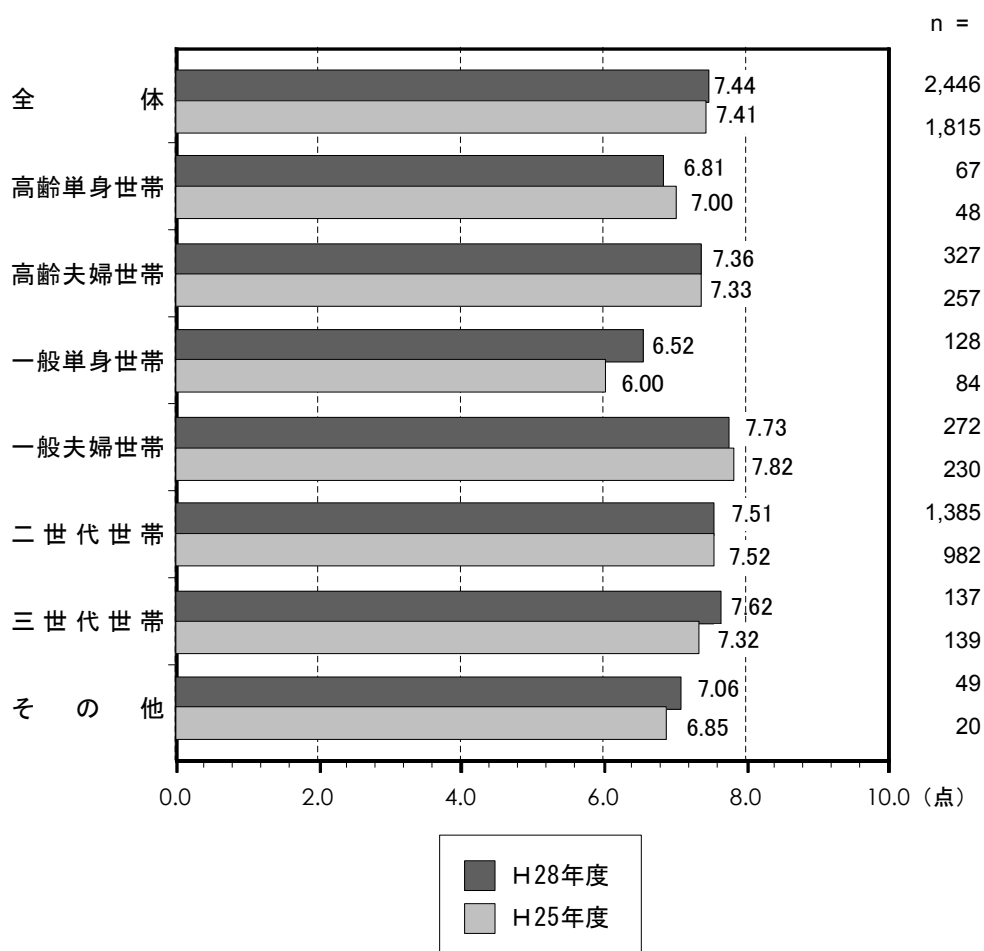
○なお、平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図2-1-8）。

図2-1-8 配偶者の有無別 「幸せ感の点数」（前回比較）



- 家族の形態別でみると、「一般夫婦世帯」(7.73)、「二世世代家族」(7.51)の幸せ感は全体より高く、「一般単身世帯」(6.52点)及び「高齢単身者」(6.81点)の幸せ感は全体よりも低くなっています。
- 家族の存在が幸せ感の重要な要素の一つであると考えられます。
- なお、平成25年度調査結果と比べると、一般単身世帯の幸せ感が0.52点上昇しているほか、ほとんど変化がみられません(図2-1-9)。

図2-1-9 家族の形態別 「幸せ感の点数」(前回比較)



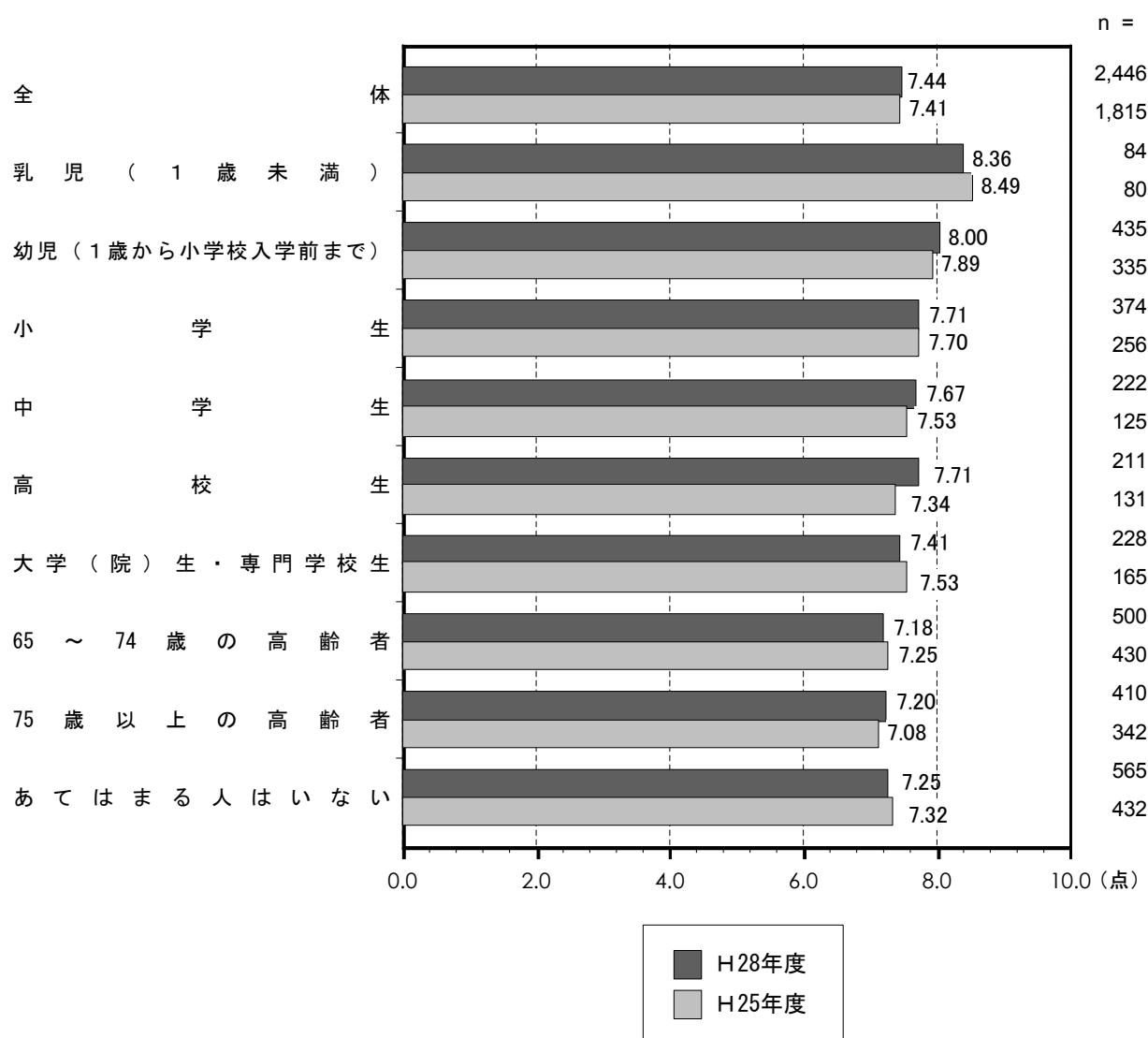
○同居家族の有無別（子どもや学生、65歳以上の高齢者との同居の有無別）でみると、「乳児」（8.36点）や「幼児」（8.00点）、「小学生」（7.71点）といった小さな子どもと同居している市民は幸せ感が高くなっています。

○子育て世代である30歳代の幸せ感が高かったこと（図2-1-3）や（図2-1-10）の結果から、家庭内における小さな子どもの存在が幸せ感の重要な要素の一つであると考えられます。

○一方、「65～74歳の高齢者」（7.18点）や「75歳以上の高齢者」（7.20点）と同居している市民は幸せ感が全体よりも若干低くなっています。

○なお、平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図2-1-10）。

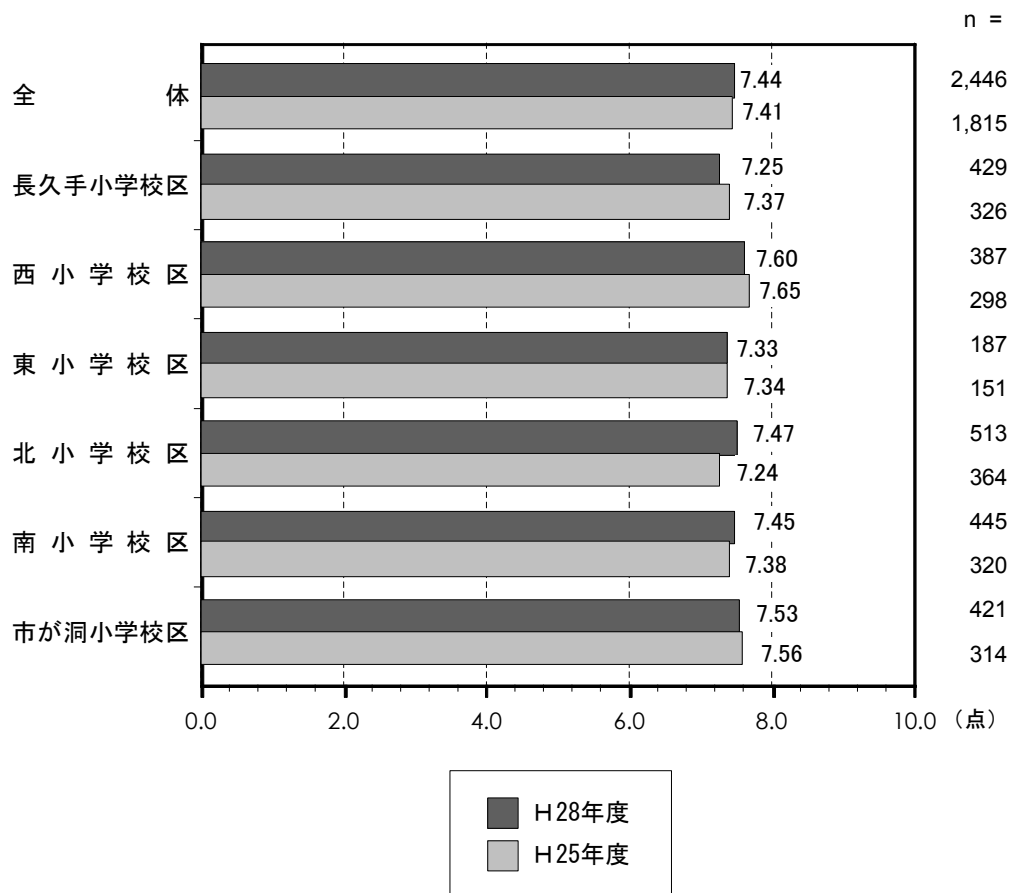
図2-1-10 同居家族別 「幸せ感の点数」（前回比較）



○小学校区別でみると、「西小学校区」(7.60 点)と「市が洞小学校区」(7.53 点)の幸せ感が全体より若干高くなっていますが、大きな差はみられません。

○また、平成 25 年度調査と比べてほとんど変化はみられません(図 2-1-11)。

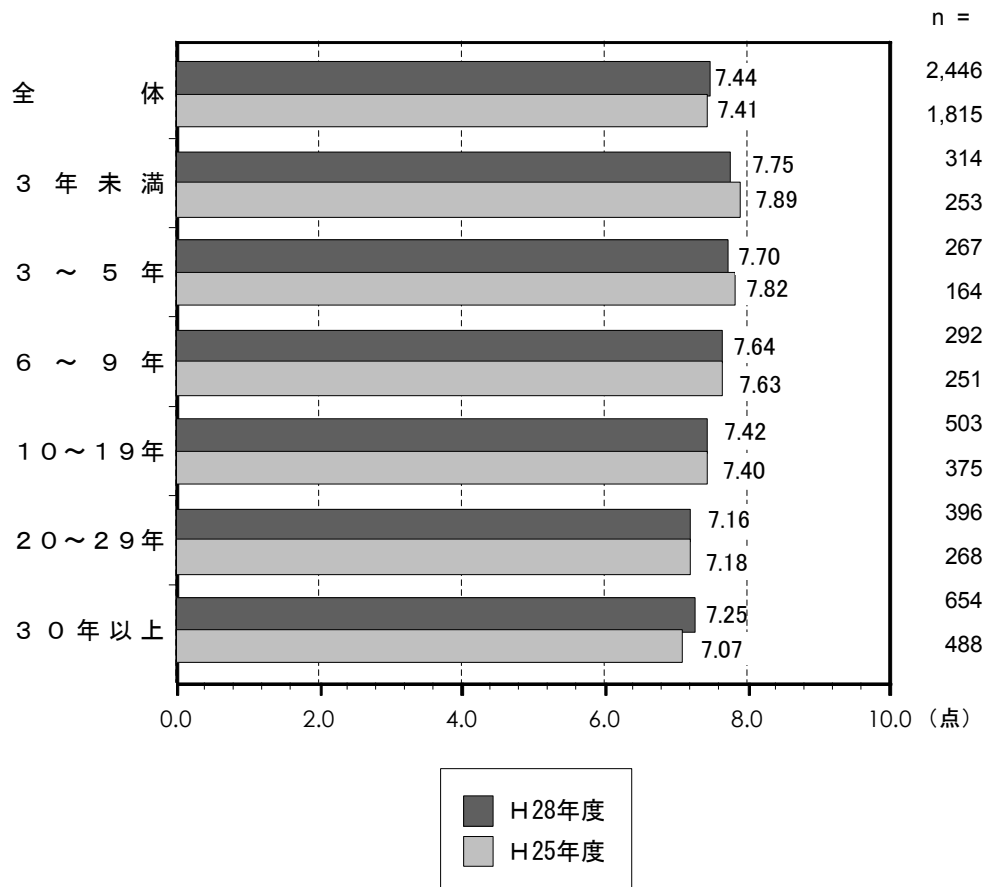
図 2-1-11 小学校区別 「幸せ感の点数」(前回比較)



○居住年数別でみると、居住年数が短いほど幸せ感の点数が順次高くなる傾向がみられます。また、居住年数10年を境に、それ以上になると全体よりも低くなっています。

○なお、平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図2-1-12）。

図2-1-12 居住年数別 「幸せ感の点数」（前回比較）



②幸せの点数を選んだ理由

要点

幸せ感の点数を選んだ理由は、「健康」に関することが33.6%と最も多く、次いで、「家族」に関すること（23.5%）、「生活全般（衣食住や生活時間）」に関すること（15.9%）「住環境・生活インフラ、行政サービス」に関すること（14.9%）と続いています。

全体

- 幸せ感の点数を選んだ理由は、「健康」（33.6%）、「家族」（23.5%）が他の項目に比べて多くなっています。
- 一方、「友人関係」（1.8%）や「地域コミュニティや近所との関係」（3.0%）など、家族以外の人間関係を理由にした割合は少なくなっています。
- 幸せ感の点数を選んだ理由の大部分は、まちのことや行政サービスなど、市政によってある程度対応できるような領域にはおさまっていないことがうかがえます。
- 平成25年度調査結果と比べて大半の理由がポイントダウンしている一方で、「生活全般（衣食住や生活時間）」は11.5ポイントも上昇したことが特徴としてみられます（図2-1-13）。

点数別

- 幸せ感の点数別でみると、幸せ感の点数が高い市民ほど「健康」に関することを理由としてあげている割合が多くなる傾向がみられます。また、割合は低いものの、「趣味・娯楽・社会貢献など」でも同様の傾向がみられます。
- 一方、「家計」に関することは、幸せ感の低い市民ほど理由としてあげる割合が多くなる傾向がみられます（図2-1-14）。

図 2-1-13 幸せ感の点数を選んだ理由（前回比較）

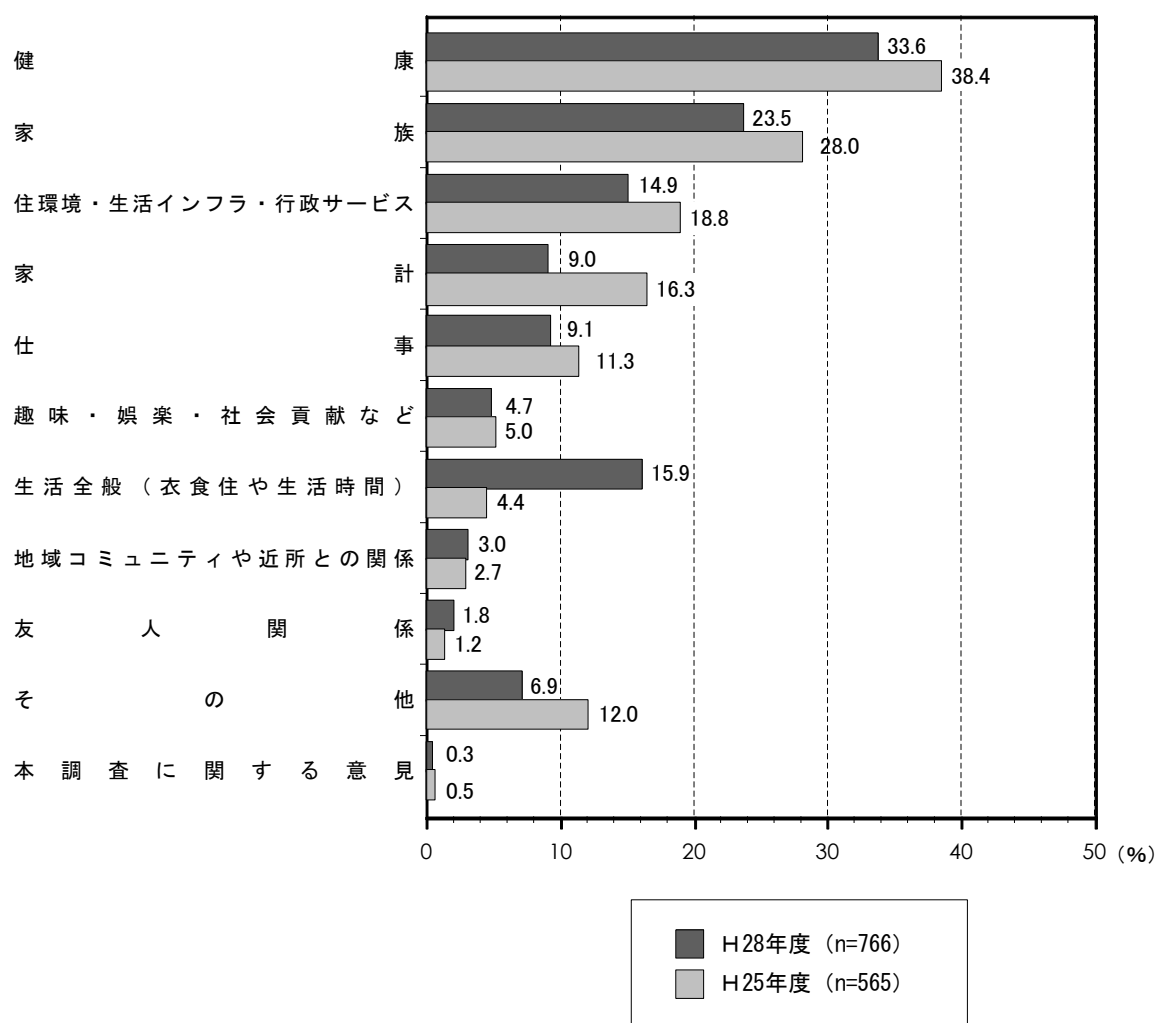
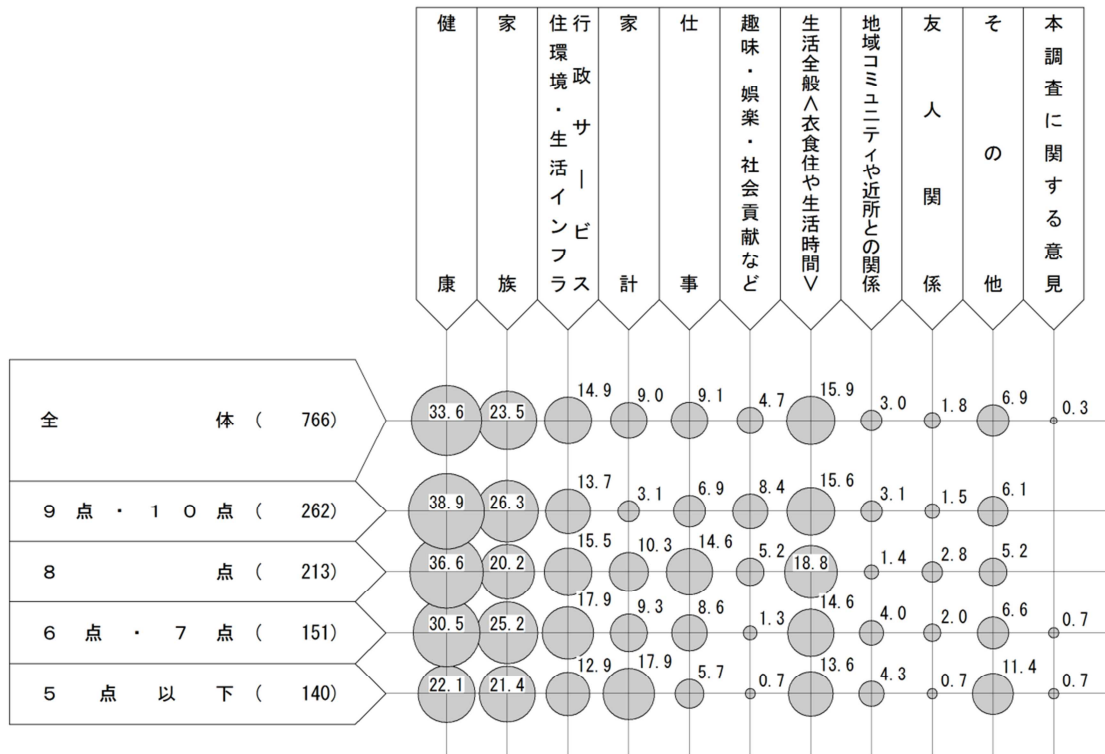


図 2-1-14 幸せ感の点数別「幸せ感の点数を選んだ理由」



③現在の幸せ感の点数と各質問項目との相関

要点

「生活全般」や「家族関係」、「家計の状況」、「就業状況」、「仕事と生活のバランス」、「仕事や趣味、社会貢献などの生きがい」といった生活の満足度や「日頃から笑顔で心豊かな生活ができていると思うか」が、幸せ感の点数とやや強い相関がみられます。

全体

- 幸せ感の点数と各質問項目との相関係数を算出することによって相関関係をみたところ、「かなり強い相関がある」という質問項目はありませんでしたが、「やや強い相関がある」や「弱い相関がある」という質問項目はかなり多くあります。
- 具体的には、「生活の満足度について」では、「生活全般」をはじめ、「家族関係」、「家計の状況」、「就業状況」、「仕事と生活のバランス」、「仕事や趣味、社会貢献などの生きがい」の6項目が、幸せ感の点数とやや強い相関関係がみられます。つまり、これらの項目の満足度が高いほど、幸せ感の点数が高くなる傾向があると言えます。
- また、「長久手の住み心地」（「住みよいまちだと思うか」、「愛着を感じているか」、「今後も住み続けたいか」の3項目）と幸せ感の点数との間にも弱い相関がみられ、住み心地がよいと感じている市民ほど幸せ感の点数が高くなる傾向が一定程度みられると言えます。
- 「生活実感」のうち、「①健康分野」については、6項目中4項目において相関がみられます。中でも「日頃から笑顔で心豊かな生活ができていると思うか」とはやや強い相関がみられます。つまり、笑顔の日常生活ができていると感じている市民ほど幸せ感が高い傾向があると言えます。
- 「②子育て・教育分野」のうち、「子育てや教育に関するサービスや施設が整っていると思うか」を除く5項目が幸せ感と弱い相関がみられます。
- 「③自然やごみなどの環境分野」では、「自然環境」と「公園や野外の遊び場」、「まち並み」の3項目が幸せ感と弱い相関がみられます。
- 「④地域のつながり分野」についても、『たつせ』があるか」と、お住まいの地域に困った時に頼りになる知人や友人が「お住いの地域にいる」や「市内にいる」の3項目が幸せ感の点数と弱い相関がみられます。
- 「⑤防災・防犯分野」では「治安がよく、安心して暮らせるか」の1項目、「⑥福祉分野」では「現在（あるいは将来の）、自分または家族の介護に対して不安を感じるか」の1項目、「⑧生活インフラ分野」では「買い物や通院に便利か」と「出かける際の移動が便利か」、「就業しやすい環境にあると思うか」の3項目が、それぞれ、幸せ感の点数と弱い相関がみられます。
- 一方、「⑦文化・生涯学習分野」と「まちづくりにおける地域の役割」については、幸せ感の点数とほとんど相関はみられません。

表 2-1-1 あなたの幸せ感の点数と各設問との相関分析

凡 例	
$ r = 0.7$ 以上～1 以下	かなり強い相関がある
$ r = 0.4$ 以上～0.7 未満	やや強い相関がある
$ r = 0.2$ 以上～0.4 未満	弱い相関がある
$ r = 0$ 以上～0.2 未満	ほとんど相関がない

生活の満足度について	
問3 (1) 家計の状況	0.4304
(2) 就業状況	0.4252
(3) 健康状況	0.3949
(4) 自由な時間、充実した余暇	0.3319
(5) 仕事や趣味、社会貢献などの生きがい	0.4193
(6) 家族関係	0.5196
(7) 友人関係	0.3458
(8) 職場の人間関係	0.3708
(9) 地域コミュニティや近所との関係	0.3036
(10) 仕事と生活のバランス	0.4206
(11) 生活全般	0.6283
長久手の住み心地について	
問4 住みよいまちだと思うか	0.3354
問5 愛着を感じているか	0.3072
問6 今後も住み続けたいか	0.2428
暮らしやお住いの地域(生活実感)について	
①健康分野	
問8 (1)健康的な暮らしができていると思うか	0.1687
(2)気軽に運動をする場所や機会、散歩ができるような環境があるか	0.1743
(3)健康的な食生活ができていると思うか	0.3075
(4)ストレスを発散する場や機会、精神的なやすらぎの場はあるか	0.3884
(5)日頃から笑顔で心豊かな生活ができていると思うか	0.5526
(6)病院やクリニックが充実していると思うか	0.2508
②子育て・教育分野	
問9 (1)安心して子どもを産み、育てることができるまちだと思うか	0.3198
(2)地域の子どもたちは、のびのびと育っていると思うか	0.2975
(3)子育てや教育に関するサービスや施設が整っていると思うか	0.1996
(4)子育てや子どもの教育などについて相談できる人、相談できる場所があるか	0.2725
(5)①家庭内での子どもとあなたとのコミュニケーション子どもとのコミュニケーションは十分取れていると思うか	0.3396
(5)②お住まいの地域の子どもとあなたとのコミュニケーション	0.2271
③自然やごみなどの環境分野	
問10 (1)豊かな自然環境があると思うか	0.2036
(2)公園や屋外の遊び場があるか	0.2160
(3)まち並みはきれいだと思うか	0.2702
(4)ごみ・資源の分別がされていると思うか	0.1983
(5)日頃から環境に配慮した生活をしているか	0.1414

④地域のつながり分野		
問 11	(1)-①スタッフとして	0.1101
	-②お客・来場者として	0.1846
	(2)-①あいさつ	0.1912
	-②近所づきあい	0.1679
	-③近所づきあいや地域とのつながり	0.1979
	(3)自宅以外の居場所があるか	0.1802
	(4)「たつせ」があるか	0.2576
	(5)-①お住まいの地域	0.2143
	-②市内	0.2343
	-③市外	0.1900
	(6)国籍や文化の異なる人々にとっても住みやすいと思うか	0.1776
⑤防災・防犯分野		
問 12	(1)災害に備えた話し合いや防災訓練に参加しているか	0.1226
	(2)災害に対する自主的な備えをしているか	0.1609
	(3)災害時の避難所と避難方法を知っているか	0.1495
	(4)治安が良く、安心して暮らせるか	0.2047
	(5)安全安心を守る取組が行われているか	0.1725
⑥福祉分野		
問 13	(1)地域で困った人への助け合いはできていると思うか	0.1787
	(2)市の福祉サービスや市内の福祉事業者のサービスを知っているか	0.0564
	(3)高齢者や障がいのある人、ベビーカーを使っている人など、まちで困っている人がいるとき、手助けをすることができると思うか	0.1886
	(4)現在(あるいは将来の)、自分または家族の介護に対して不安を感じるか	0.2524
	(5)-①高齢者にとって暮らしやすい	0.1875
	-②障がいのある人にとって暮らしやすい	0.1747
⑦文化・生涯学習分野		
問 14	(1)長久手の歴史や伝統文化に関心があるか	0.1403
	(2)長久手市は芸術文化に接したり取り組んだりする機会に恵まれていると思うか	0.1646
	(3)長久手市はあなたの知的興味や知識、能力を磨いたり伸ばしたりする機会に恵まれていると思うか	0.1976
	(4)お住まいの地域には、自慢したい地域の「宝」があるか	0.1623
	(4)-1「宝」の詳細記入	0.0574
⑧生活インフラ分野		
問 15	(1)買い物や通院に便利か	0.2509
	(2)出かける際の移動が便利か	0.2220
	(3)出かける際の移動の安全が確保されていると思うか	0.1986
	(4)就業しやすい環境にあると思うか	0.2207
	(5)インターネットや電子メールをコミュニケーション手段として利用しているか	0.1825
⑨まちづくりにおける地域の役割		
問 16	何か社会のために役立ちたいと思っているか	0.1540
問 17	課題解決のために地域のコミュニティが中心に進めていく事が重要になると思うか	0.1857
問 18	コミュニティが中心になって進めていく場合、それに参加するか	0.1338

(2) 大事だと思う分野（問2）

問2 次の8つの分野の中からあなたにとって「特に大事だと思う分野」を3つまで選んでその番号を回答欄に記入してください。なお、「特に大事だと思う分野はない」という場合には、左端の欄に「9」を記入してください。

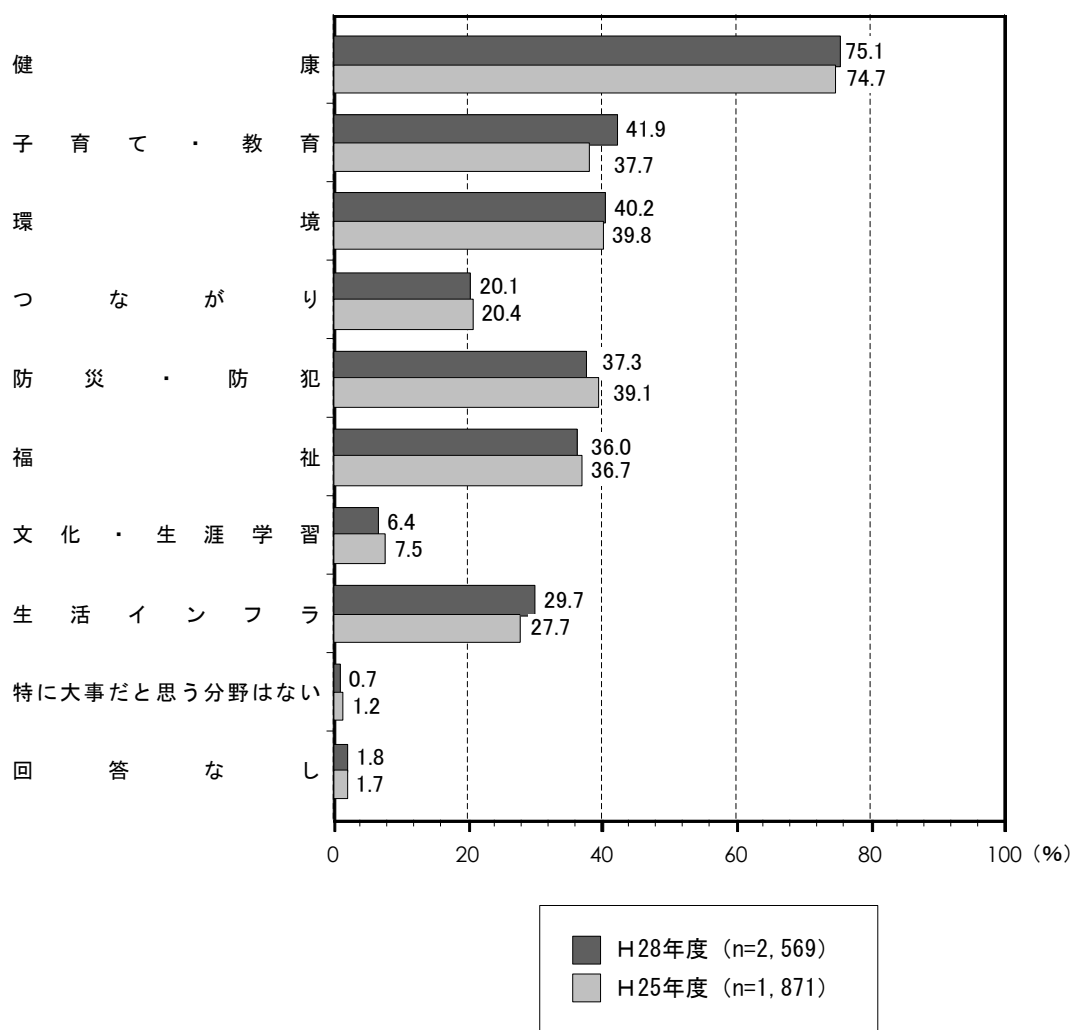
要点

大事だと思う分野は、「健康」が75.1%と多くなっていますが、「文化・生涯学習」(6.4%)が少なくなっています。

全体

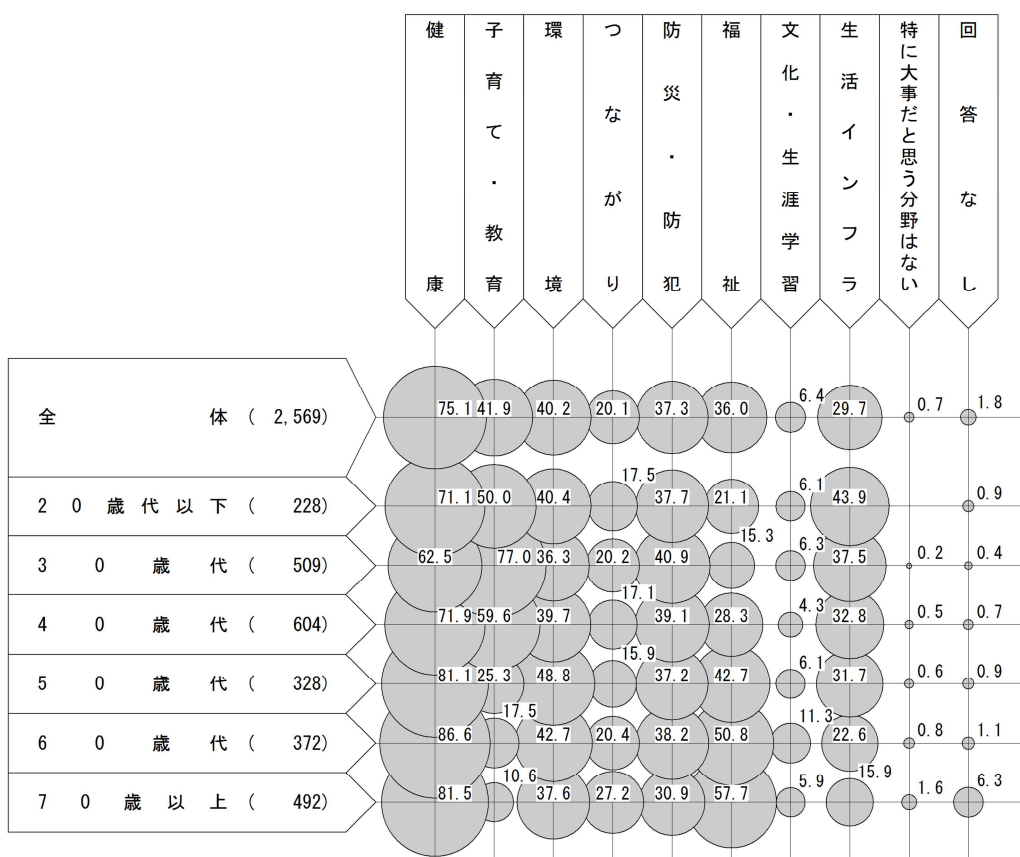
- 大事だと思う分野は、「健康」が75.1%と多くなっています。
- 一方、「文化・生涯学習」(6.4%)が少なくなっています。
- 平成25年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図2-2-1）。

図2-2-1 大事だと思う分野（前回比較）



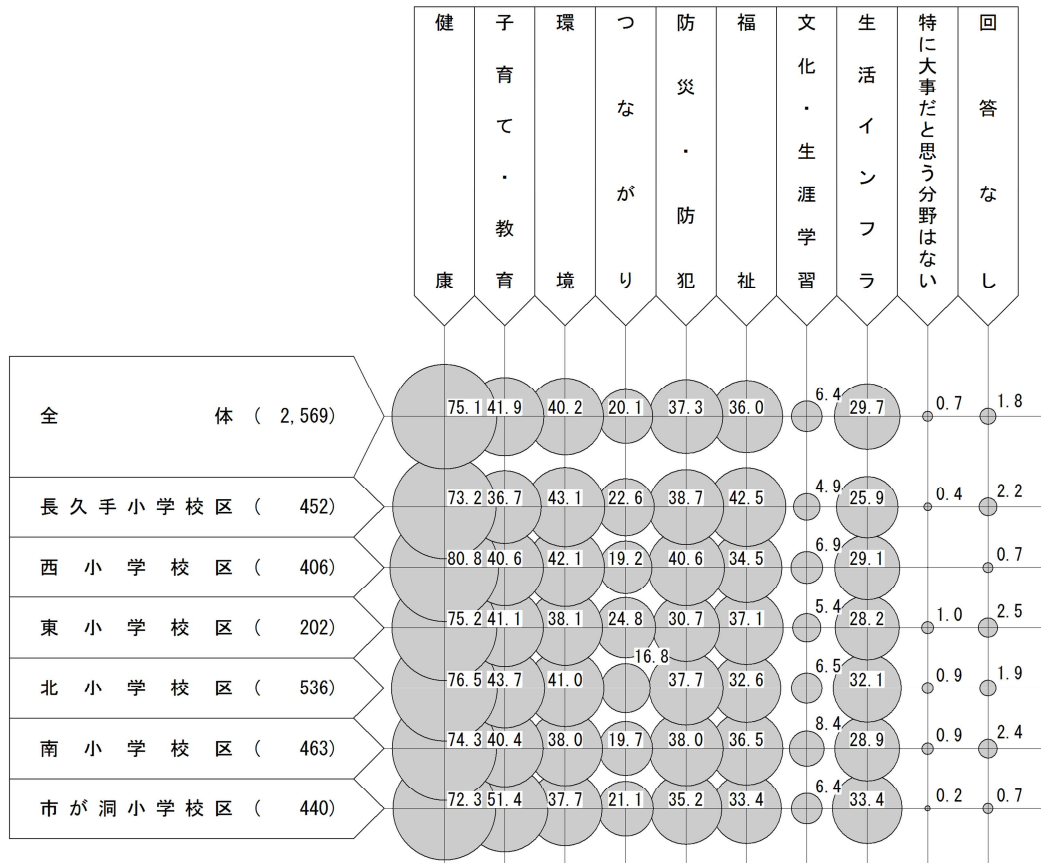
- 年齢別にみると、「健康」は50歳以上の年齢層で若干多くなっている一方で、30歳代における割合が少なくなっています。
- 「福祉」についても、若年層では少なく、50歳代以上の中高年層割合が多い傾向がみられ、特に70歳代では57.7%となっています。
- 上記の2項目に対して、「子育て・教育」については、年齢が若い市民ほど割合が多くなっています。特に30歳代（77.0%）をはじめ、40歳代（59.6%）や20歳代以下（50.0%）といったいわゆる子育て世代において割合が多くなっています。
- また、「生活インフラ」についても若い世代になるほど大事だと思う割合が多くなる傾向が顕著にみられ、20歳代以下では43.9%となっています。さらに、「防災・防犯」についてもどちらかといえば、比較的若い市民の方が大事だと思う割合が多くなっています（図2-2-2）。

図2-2-2 年齢別 「大事だと思う分野」



- 小学校区別でみると、「健康」については、西小学校区（80.8％）で大事だと思う割合が若干多くなっています。
- 「子育て・教育」については、新興住宅地で若い世代が多い市が洞小学校区（51.4％）で全体と比べて多くなっています。
- 「福祉」については、長久手小学校区（42.5％）で全体と比べて若干多くなっています（図2-2-3）。

図2-2-3 小学校区別 「大事だと思う分野」



(3) 生活の満足度 (問3)

問3 あなたは、次の (1) から (11) までの項目についてどの程度満足していますか。(1) から (11) までの項目それぞれについて、1～5の中から1つずつ選んでください。

※(2)、(8)、(10)については、あなたの就業状況や就業形態によって回答が難しい場合は、「6. 該当しない」に○をつけてください。

要点

いずれの項目においても評点が3.00以上あり、特に「家族関係」(3.87)や「友人関係」(3.83)、「健康状況」(3.64)の満足度が高い一方で、「地域コミュニティや近所との関係」(3.28)や「仕事と生活とのバランス」(3.33)、「家計の状況」(3.37)などの満足度はこれらの項目に比べて低くなっています。

※()内の数字は、前述(P.2)の算出方法による評点(平均点)です。評点が3.00は「どちらともいえない」という状態を示すものです。

全体

○11項目にわたる生活の満足度についてたずねたところ、まずは、最後の項目の「生活全般」については、「満足している」が10.8%、「どちらかといえば満足している」が52.5%となっており、これらを合わせた満足と感じている市民の割合(以下“満足という評価”)は63.3%を占めています。

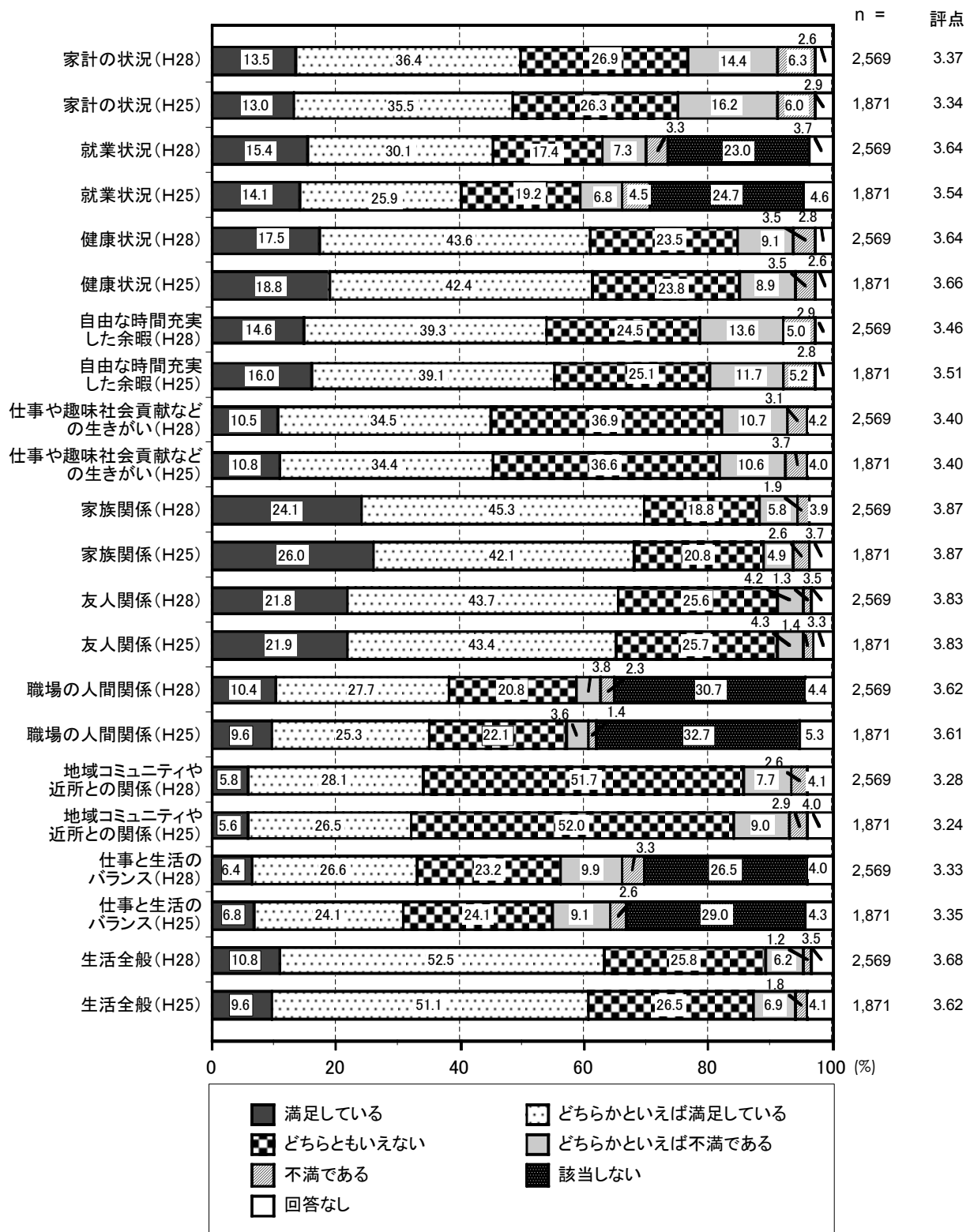
○一方、「どちらかといえば不満である」が6.2%、「不満である」が1.2%となっており、これらを合わせた不満と感じている市民の割合は7.4%にとどまっており、その結果、“満足という評価”をした市民と“不満という評価”とした市民が同数である場合の評点である3.00を大きく上回る3.68になっています。

○各項目の満足度をみると、“満足という評価”の割合が最も多いのは「家族関係」(69.4%、3.87)で、次いで、「友人関係」(65.5%、3.83)、「健康状況」(61.1%、3.64)と続いています。

○評点については、いずれの項目についても3.00を超えているものの、「地域コミュニティや近所との関係」(3.28)をはじめ、「仕事と生活とのバランス」(3.33)や「家計の状況」(3.37)、「仕事や趣味、社会貢献などの生きがい」(3.40)の満足度については、「家族関係」や「友人関係」などと比べると低くなっています。

○平成25年度調査結果と比べると、「就業状況」については0.10ポイント上昇していますが、全般的には大きな変化はみられません(図2-3-1)。

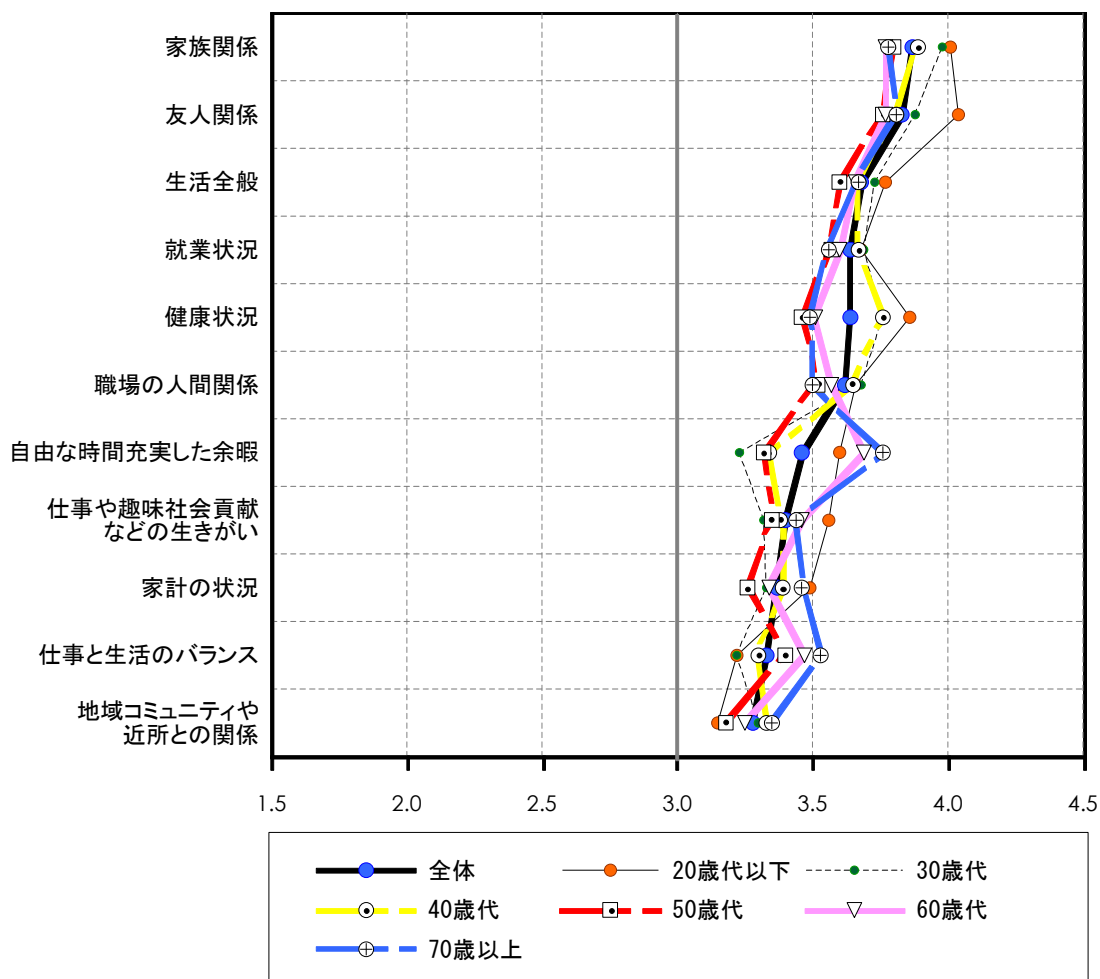
図2-3-1 生活の満足度（前回比較）



○年齢別にみると、「友人関係」や「健康状況」などについては、20 歳代以下における満足度が最も高くなっていることが特徴としてみられます。「健康状況」については、40 歳代も比較的高くなっていますが、そのほかの年代は全体値を下回っています。

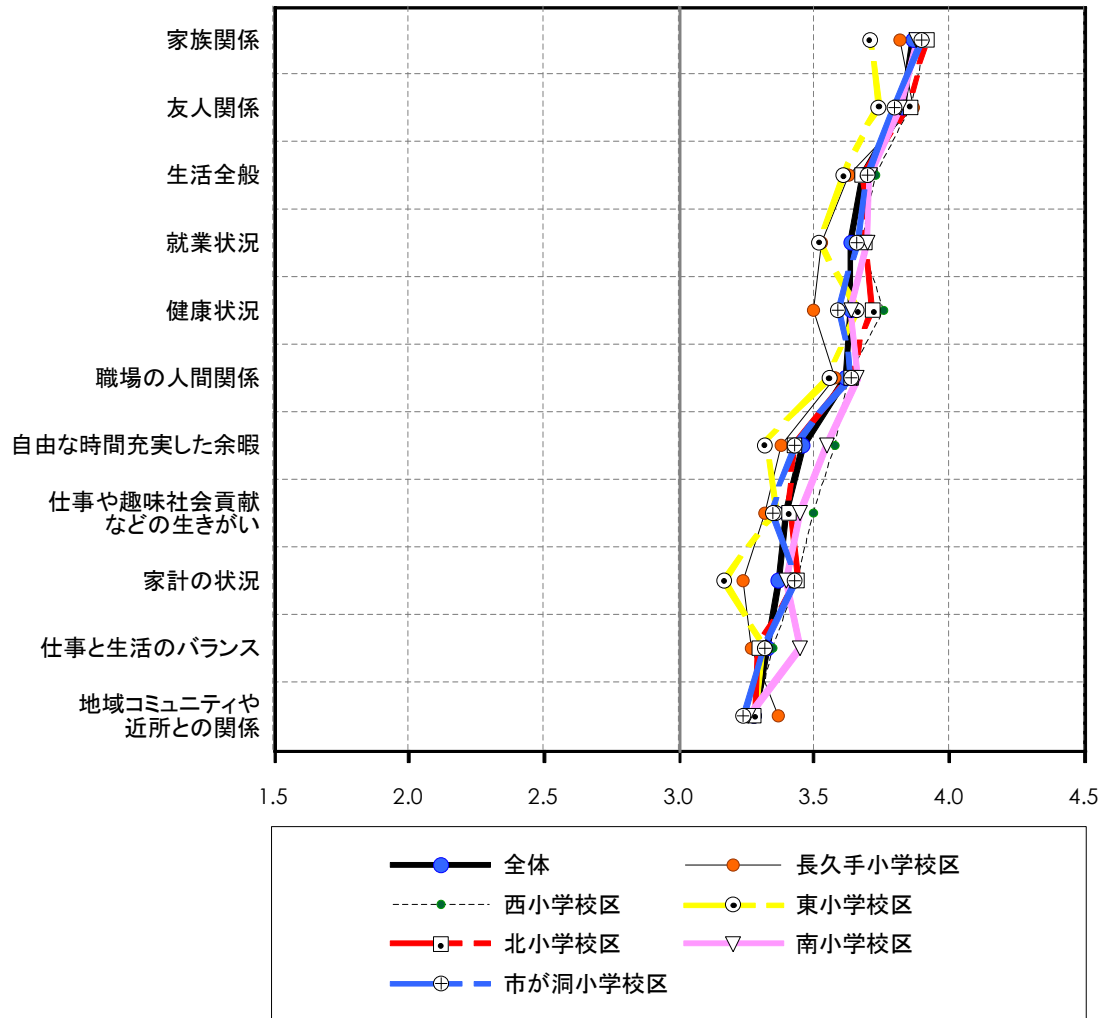
○一方、「自由な時間充実した余暇」は働き盛りである 30 歳代～50 歳代での評点が低くなっています（図 2-3-2）。

図 2-3-2 年齢別 「満足度（評点）」



○小学校区別にみると、「家計の状況」が東小学校区や長久手小学校区における評点が若干低くなっているものの、全体的に大きな差は見受けられません（図2-3-3）。

図2-3-3 小学校区別 「満足度（評点）」



第3章 住み心地について

(1) 住みよいまちだと思うか（前回比較）（問4）

問4 長久手を住みよいまちだと思いますか。次の中から選んでください。【〇は1つ】

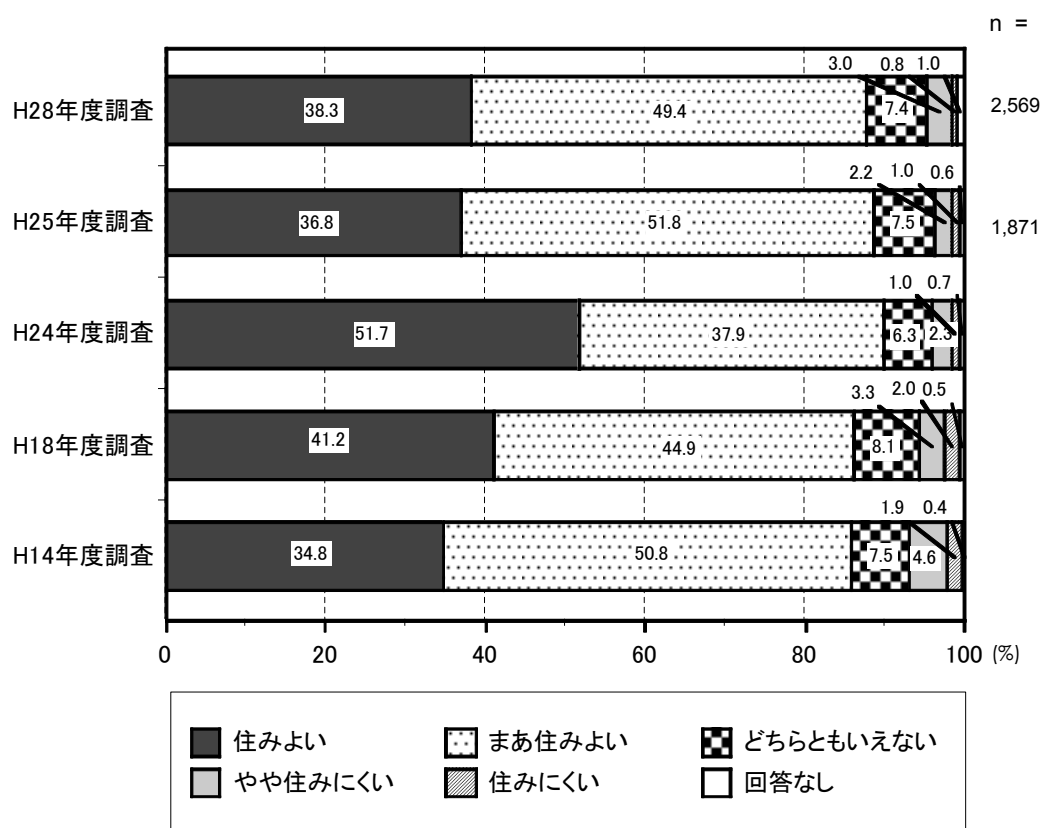
要点

長久手市に対して住みやすさを感じている市民は9割近くを占めています。

全体

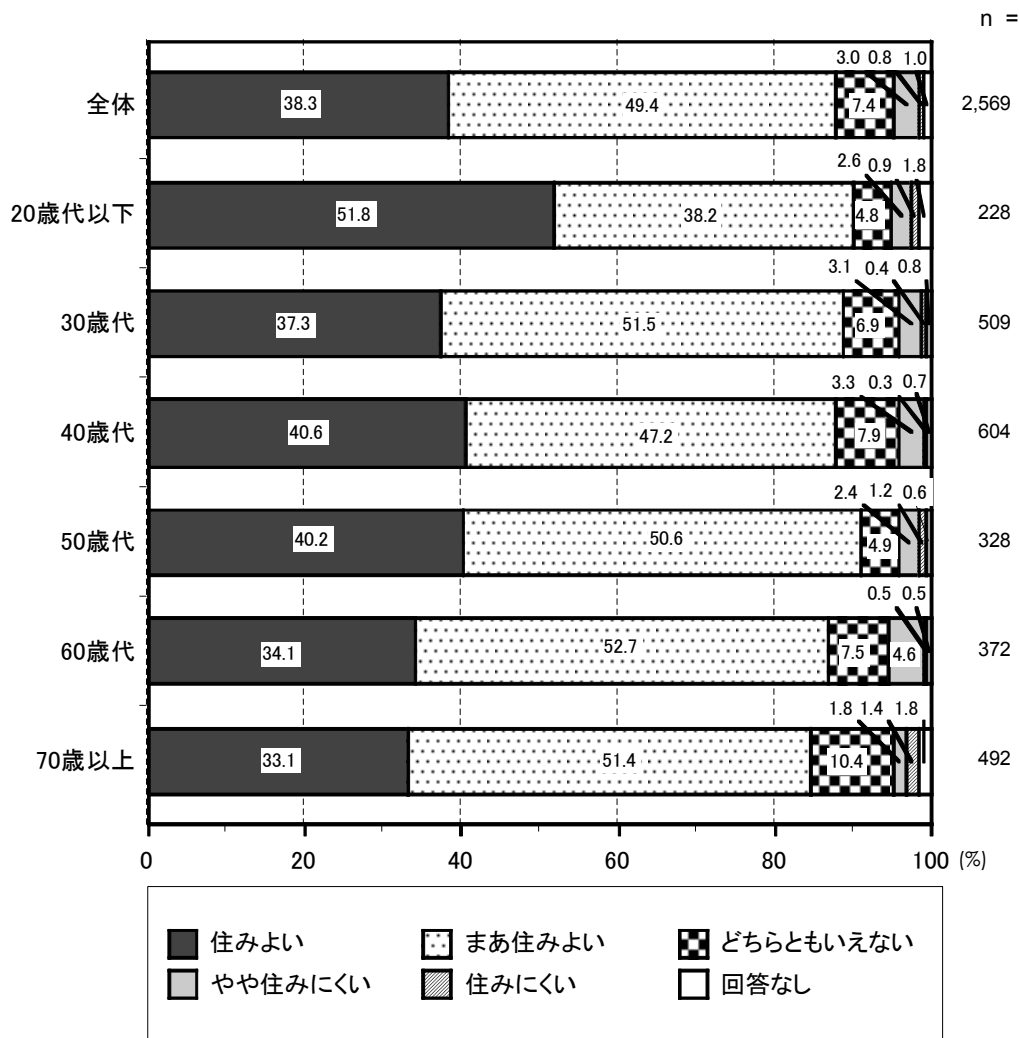
- 住みやすさについてたずねたところ、「住みよい」が38.3%、「まあ住みよい」が49.4%となっており、これらを合わせると、長久手市に対して住みやすさを感じている市民は87.7%となります。
- 「やや住みにくい」(3.0%)と「住みにくい」(0.8%)については、合わせても3.8%となっています。
- 過去に実施した調査結果と比較すると、H24年度調査より「住みよい」と回答した市民の割合は13.4ポイント少なくなっていますが、「住みよい」「まあ住みよい」と合わせた割合は、いずれの年度の調査結果と比較しても大きな変化はありません（図3-1-1）。

図3-1-1 住みよいまちだと思うか（前回比較）



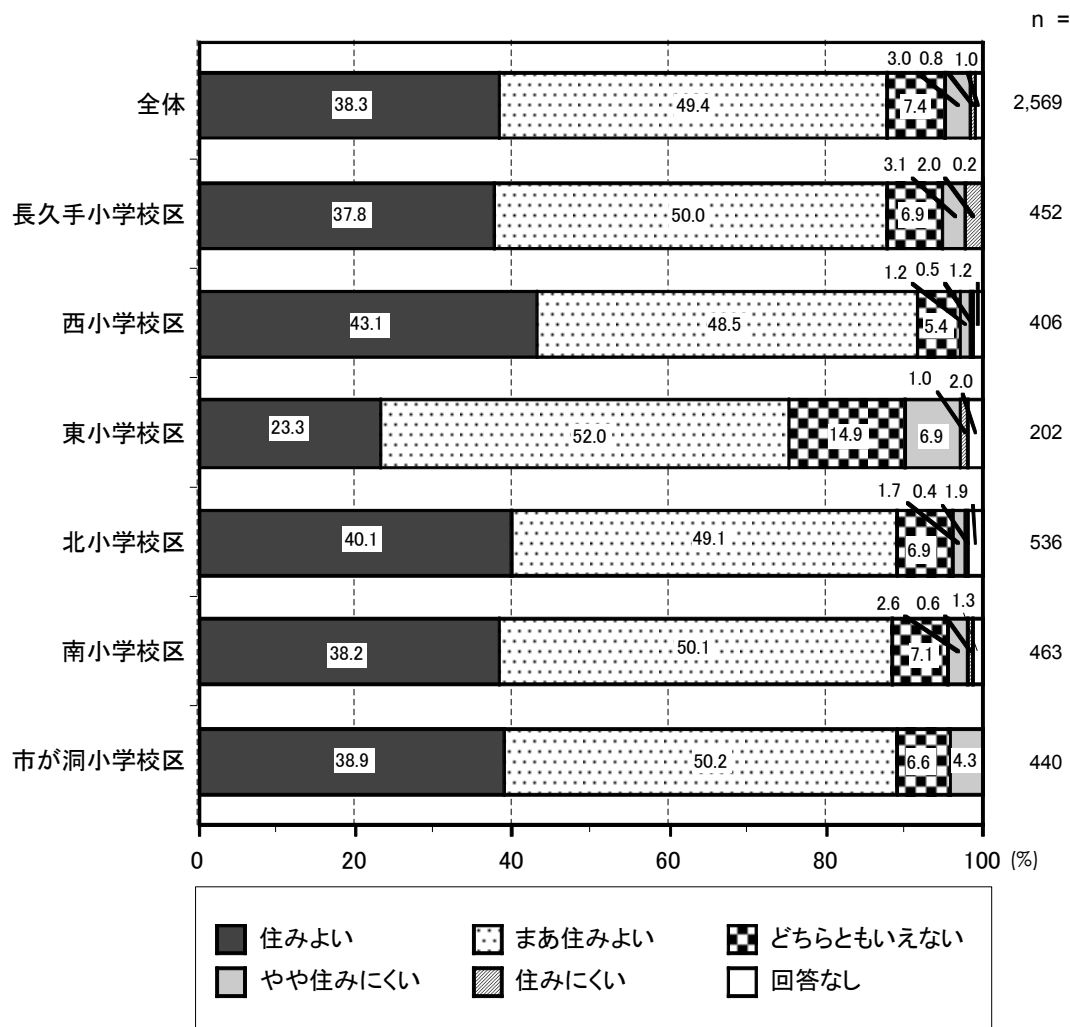
○年齢別にみると、「住みよい」は、20歳代以下（51.8%）で多くなっている一方で、60歳代や70歳以上の高齢者層で若干少なくなっています。このように、どちらかといえば、高齢者層に比べて若い世代の方が住みやすさを感じている傾向があります（図3-1-2）。

図3-1-2 年齢別 「住みよいまちだと思うか」



○小学校区別にみると、住みやすさ（「住みよい」と「まあ住みよい」と回答した合計）を感じている市民は、東小学校区を除くすべての小学校区で8割を超えていますが、東小学校区では、「住みよい」の割合が23.3%と全体に比べて少なくなっています（図3-1-3）。

図3-1-3 小学校区別 「住みよいまちだと思うか」



(2) 愛着を感じているか（問5）

問5 長久手に愛着を感じていますか。次の中から選んでください。【○は1つ】

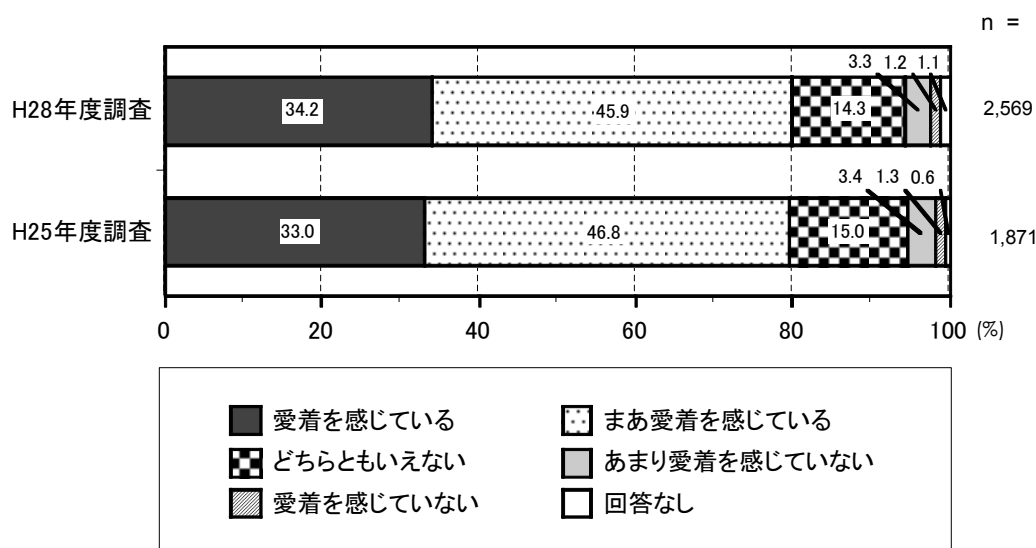
要点

長久手市に愛着を感じている市民は8割近くを占めています。

全体

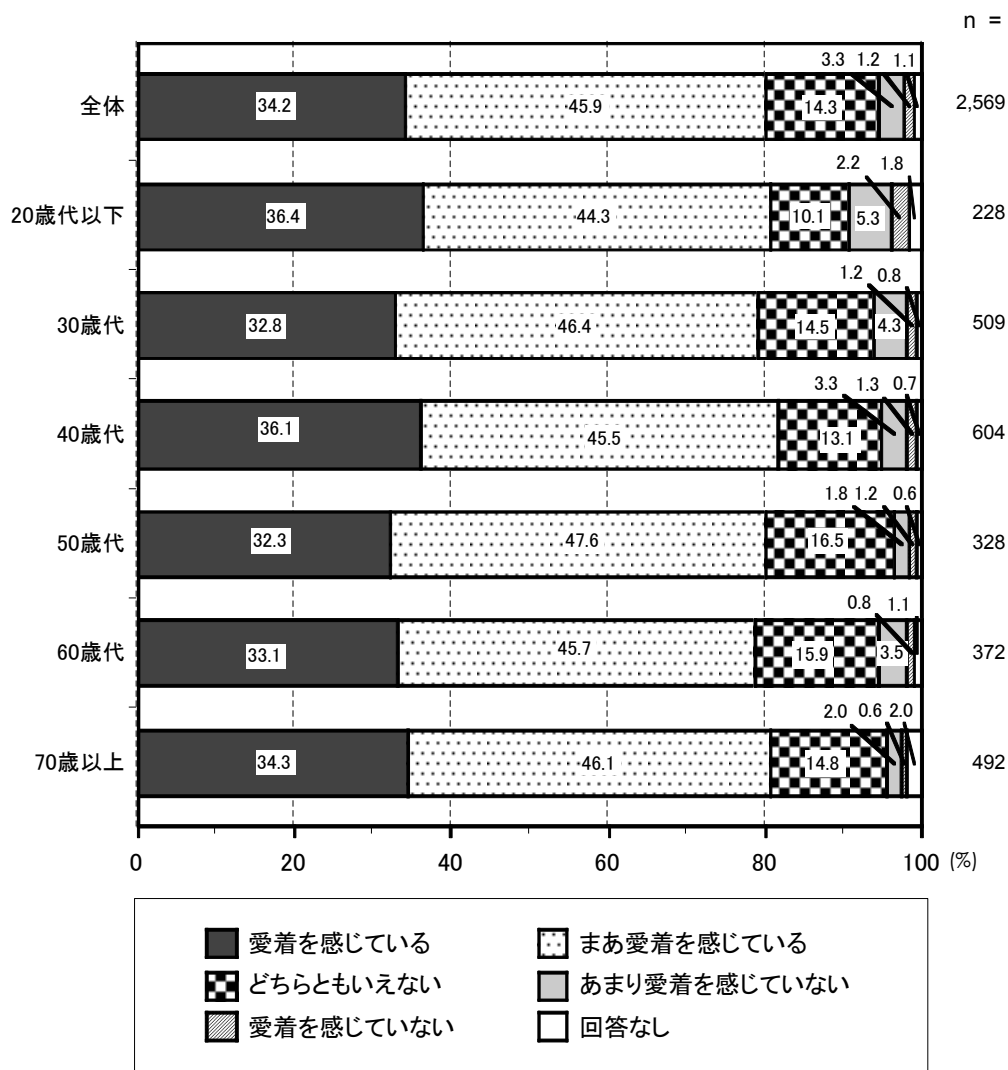
- 愛着の程度についてたずねたところ、「愛着を感じている」が 34.2%、「まあ愛着を感じている」が 45.9%となっており、これらを合わせると 80.1%になります。
- 「あまり愛着を感じていない」（3.3%）と「愛着を感じていない」（1.2%）については、合わせても 4.5%と、「愛着を感じている」、「まあ愛着を感じている」市民の割合と比べると極めて少ない結果になっています。
- 平成 25 年度調査結果と比べてほとんど変化はみられません（図 3-2-1）。

図 3-2-1 愛着を感じているか（前回比較）



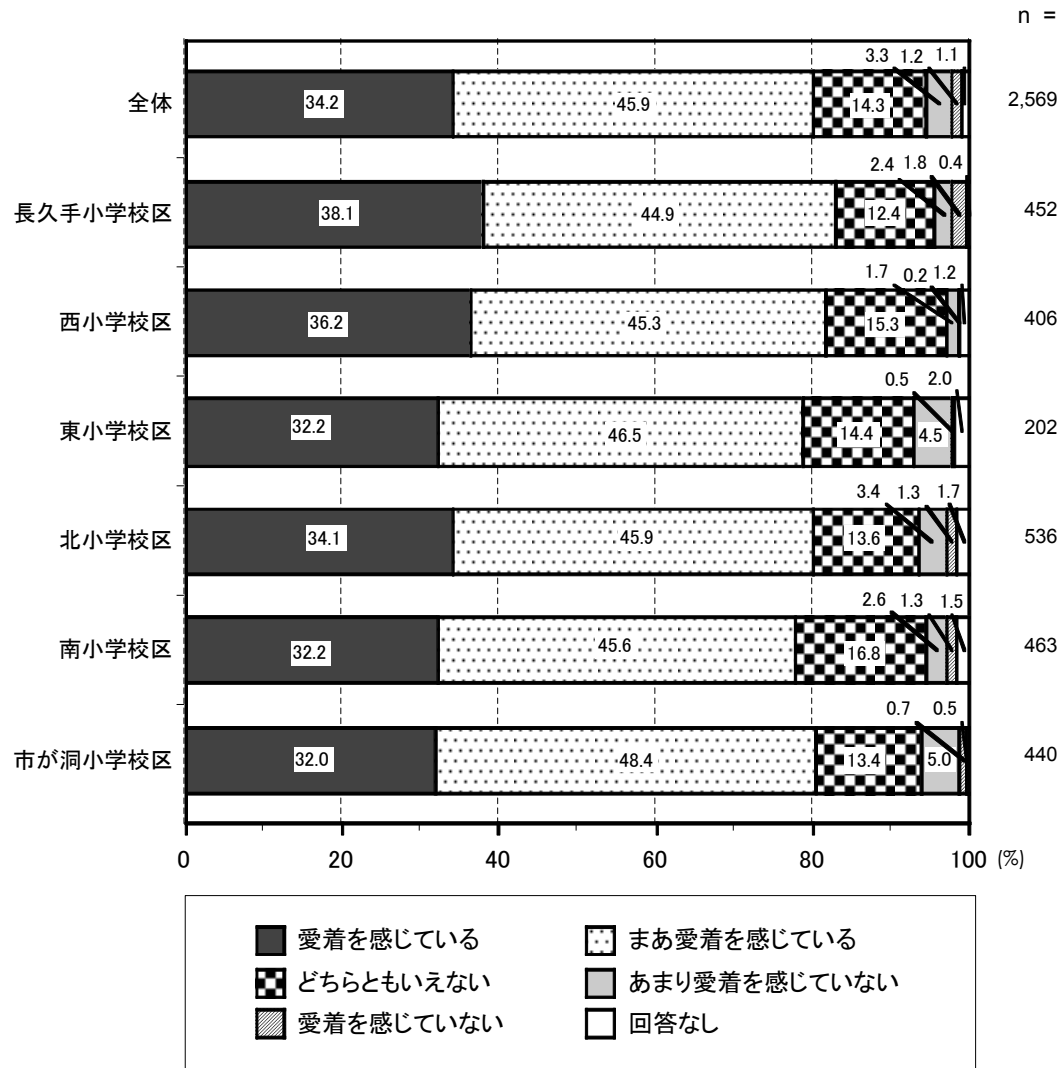
○年齢別による有意な差はみられません（図3-2-2）。

図3-2-2 年齢別 「愛着を感じているか」



○全般的にみて小学校区による大きな差もみられません（図3-2-3）。

図3-2-3 小学校区別 「愛着を感じているか」



(3) 今後も住み続けたいか（問6）

問6 今後も長久手に住み続けたいですか。次の中から選んでください。【〇は1つ】

要点

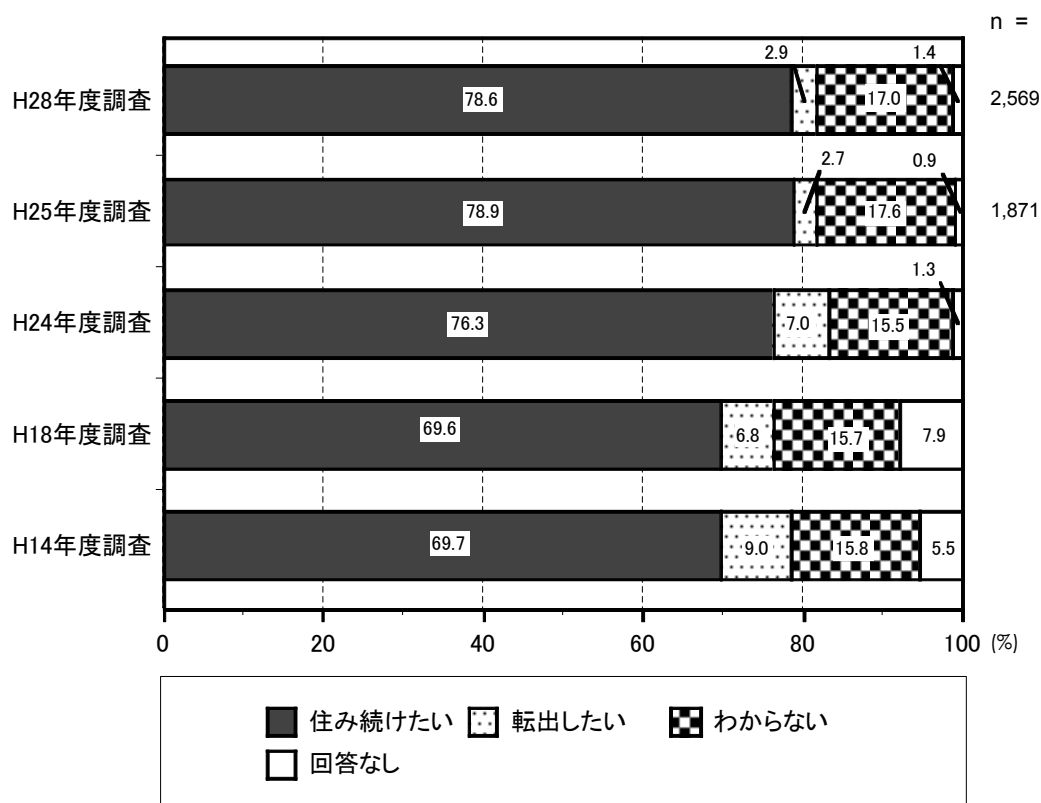
長久手市における定住意向を示している市民は8割近くを占めており、これまで実施した調査の中で2番目に多くなっています。

全体

○今後の定住意向について尋ねたところ、「住み続けたい」が78.6%を占めるのに比べて、「転出したい」は2.9%と極めて少ない結果になっています。

○過去に実施した調査結果と比較すると、「住み続けたい」と回答した市民の割合は、平成25年度調査に次いで2番目に多くなっています（図3-3-1）。

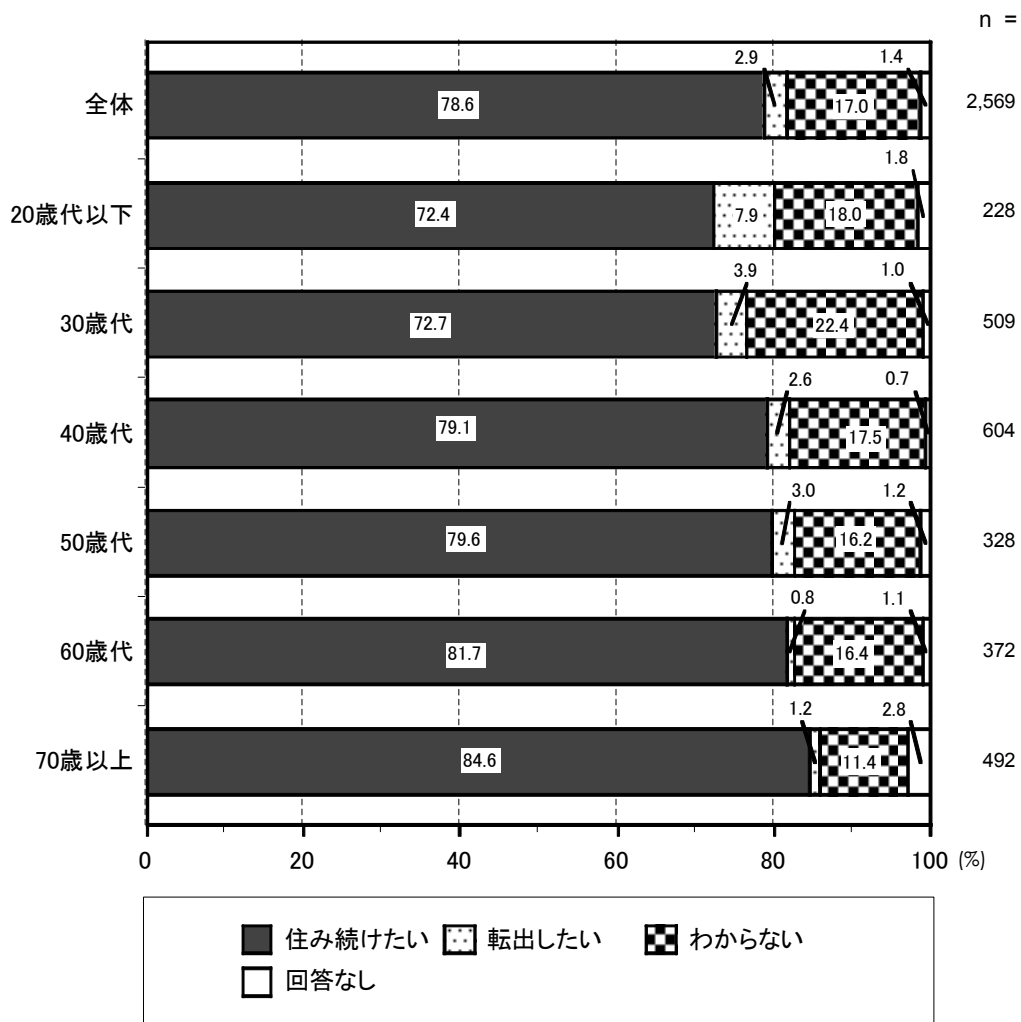
図3-3-1 今後も住み続けたいか（前回比較）



○年齢別にみると、「住み続けたい」と回答した市民の割合は、20歳代以下で72.4%と全体に比べて若干少ない一方で、70歳代以上（84.6%）で若干多くなっています。

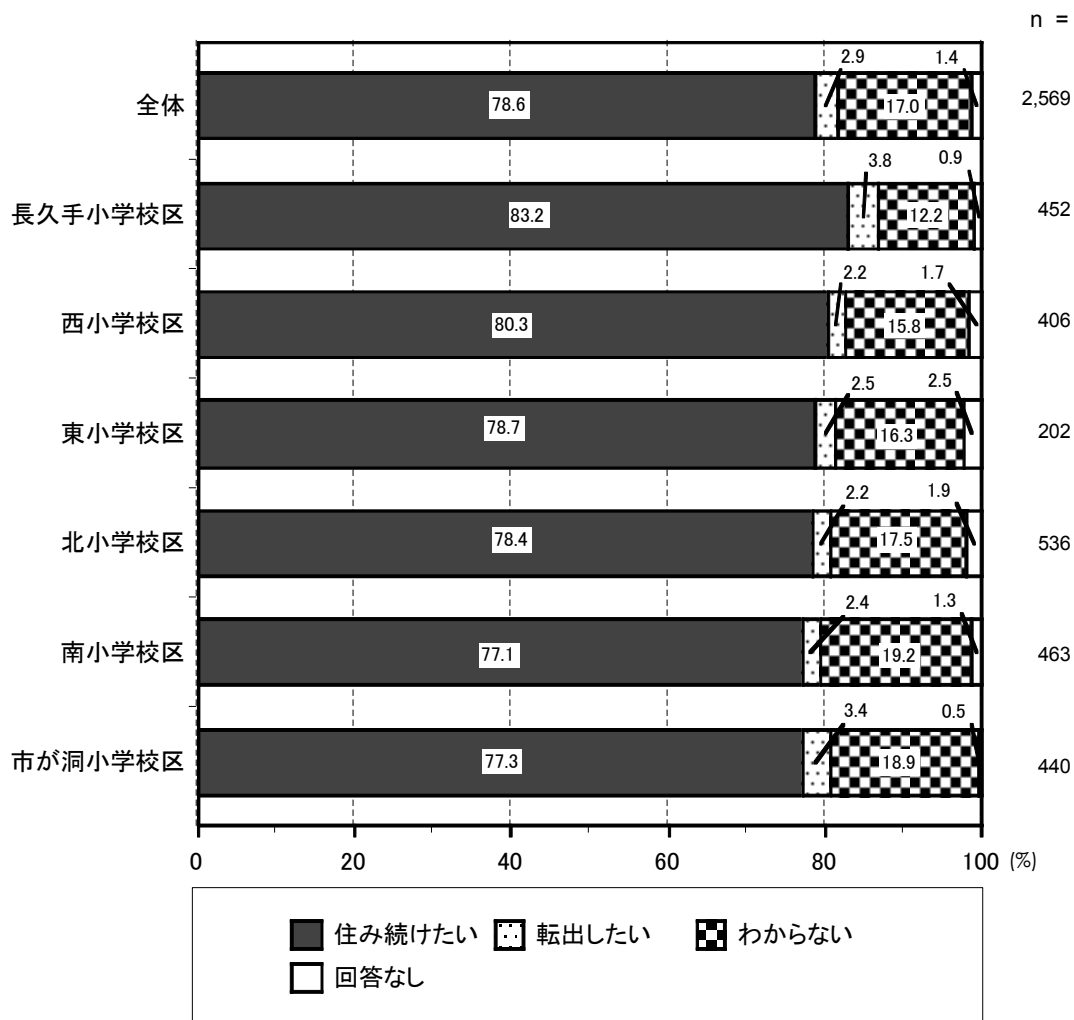
○また、年齢が高いほど定住意向が順次高まっていく傾向がみられます（図3-3-2）。

図3-3-2 年齢別 「今後も住み続けたいか」



○長久手小学校区における定住意向が若干高くなっているものの、全般的にみて小学校区の違いによる定住意向の差はあまりみられません（図3-3-3）。

図3-3-3 小学校区別 「今後も住みたいか」



(4) 魅力的な点・魅力的でない点（問7）

問7 長久手には「魅力的な点」や「魅力的でない点」がありますか。【○はそれぞれ1つ】
また、それはどんなことですか。「1. ある」を選んだ方は、それぞれ3つまで記入してください。

要点

長久手の魅力的な点や魅力的でない点について、過半数の市民が魅力的な点とそうでない点の両面を持ち合わせたまちであると回答していますが、魅力的な点が「ある」という回答の方が魅力的でない点が「ある」という回答を上回っています。

全体

○「魅力的な点」と「魅力的でない点」について、それぞれその有無をたずねたところ、魅力的な点が「ある」という回答（81.2%）と魅力的でない点が「ある」という回答（57.2%）は共に過半数を占めており、長久手市は、市民にとって魅力的な点とそうでない点の両面を持ち合わせたまちであることを示す結果になっています。

○しかしながら、魅力的な点が「ある」という回答は、魅力的でない点が「ある」という回答を24.0ポイントも上回っていることから、どちらかといえば魅力的な点が多いまちとして捉えられています（図3-4-1）。

○平成25年度調査結果と比べると、魅力的な点が「ある」という回答と魅力的でない点が「ある」という回答は共に増加しています。特に魅力的な点が「ある」という回答（5.4ポイントアップ）の方が魅力的でない点が「ある」という回答（4.9ポイントアップ）よりも上回って増加しています。

○「交通や買物等の利便性の高さ」といった生活インフラ分野や、「自然や緑が豊か」や「公園が多い」、「田園があり適度に田舎で適度に都会」といった環境分野、「まちがきれい・新しい・発展しているなどのイメージ」などが、長久手の主要な魅力的な点となっています（表3-4-1）。

○生活インフラ分野は、長久手の主要な魅力的な点となっている一方で、「渋滞が多い」や「Nバス、リニモなどの公共交通機関が不便」、「交通の便が悪い」など、魅力的でない点としても数多くあげられています。また、「防犯対策が不十分」についても比較的多くの市民から魅力的でない点として指摘されています（表3-4-2）。

図3-4-1 魅力的な点・魅力的でない点（前回比較）

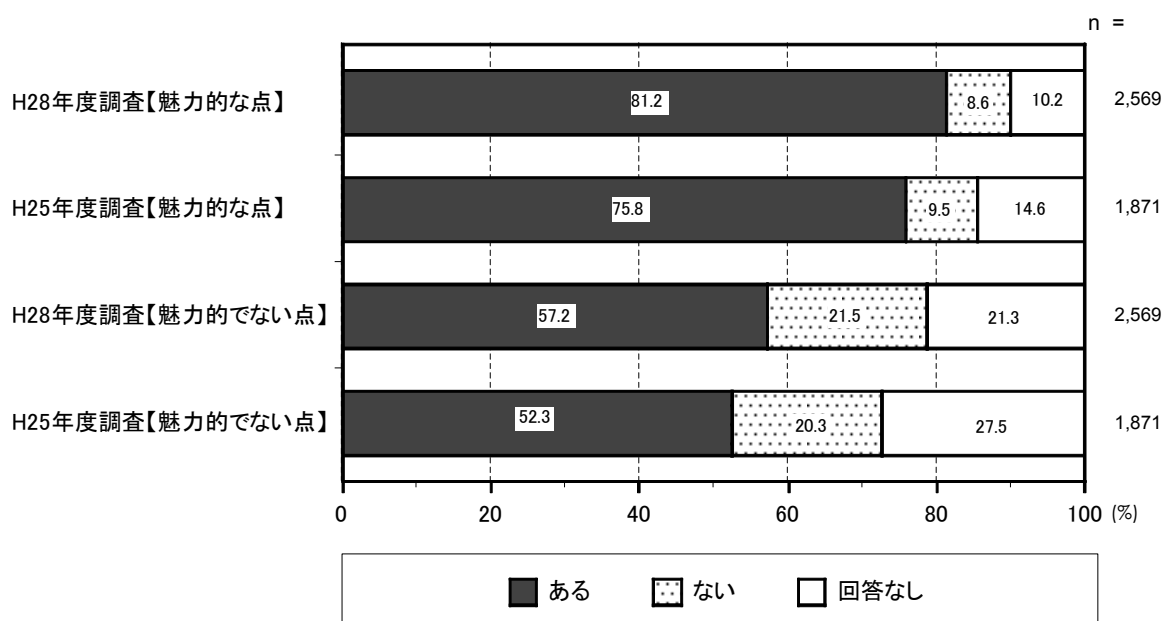


表 3-4-1 長久手の魅力的な点

分野	魅力的な点	意見数
健康 (計：133 件)	医療関係の充実	128
	医療費助成がある	2
	健康面への対応	3
子育て・教育 (計：181 件)	子育てしやすい、子育て支援の充実	97
	子ども・子育て世代が多い	47
	小中学校など教育環境などがよい	29
	その他（子どもが遊ぶ公園が充実している 等）	8
環境 (計：1,313 件)	自然豊か、自然が残っている	397
	緑が多い	197
	静か	123
	公園が多い	181
	環境がよい	137
	景観がよい	38
	空気や水がきれい	25
	田園があり適度に田舎で適度に都会	178
	ごみ対策が進んでいる	12
	その他（工場が少ない 等）	25
人や地域のつながり (計：72 件)	地域・人とのつながりがよい	60
	地域組織や活動が充実	12
防災・防犯 (計：94 件)	治安がよいなど安全・安心なまち	69
	自然災害が少ない	19
	その他（街灯がある、防災意識が高い 等）	6
福祉 (計：48 件)	福祉が充実している、福祉に力を入れている	40
	ボランティア活動が盛ん	6
	その他（高齢者が活躍している 等）	2
文化・生涯学習 (計：196 件)	歴史がある	49
	伝統・文化活動が盛ん	30
	文化・スポーツ等の施設が充実している	39
	文化的なまち	21
	生涯学習が盛ん	8
	大学が多く文化的	10
	万博開催地	9
	その他（ござらっせがある 等）	30
生活インフラ (計：1,625 件)	交通の便がよい	228
	商業施設の充実、店舗が多い	445
	買い物が便利	151
	駅やインターに近く名古屋に近いなどアクセスがよい	239
	日常生活の利便性	193
	住環境がよく、住みやすい	210
	リニモ、Nバス等公共交通機関が便利	89
	道路整備の充実	57
	公共施設	5
	その他	8

分野	魅力的な点	意見数
市政運営等について (計：65 件)	市政運営	31
	財政	5
	市長、市職員の対応等	25
	その他	4
まちや人のイメージ (計：619 件)	まちがきれい・新しい・発展しているなどのイメージ	329
	活気がある・のどかなどの雰囲気	121
	コンパクトなどまちの規模	41
	若い人が多い	41
	人口	12
	住民の気質	63
	その他	12
その他 (計：6 件)	その他	6
合 計		4,352

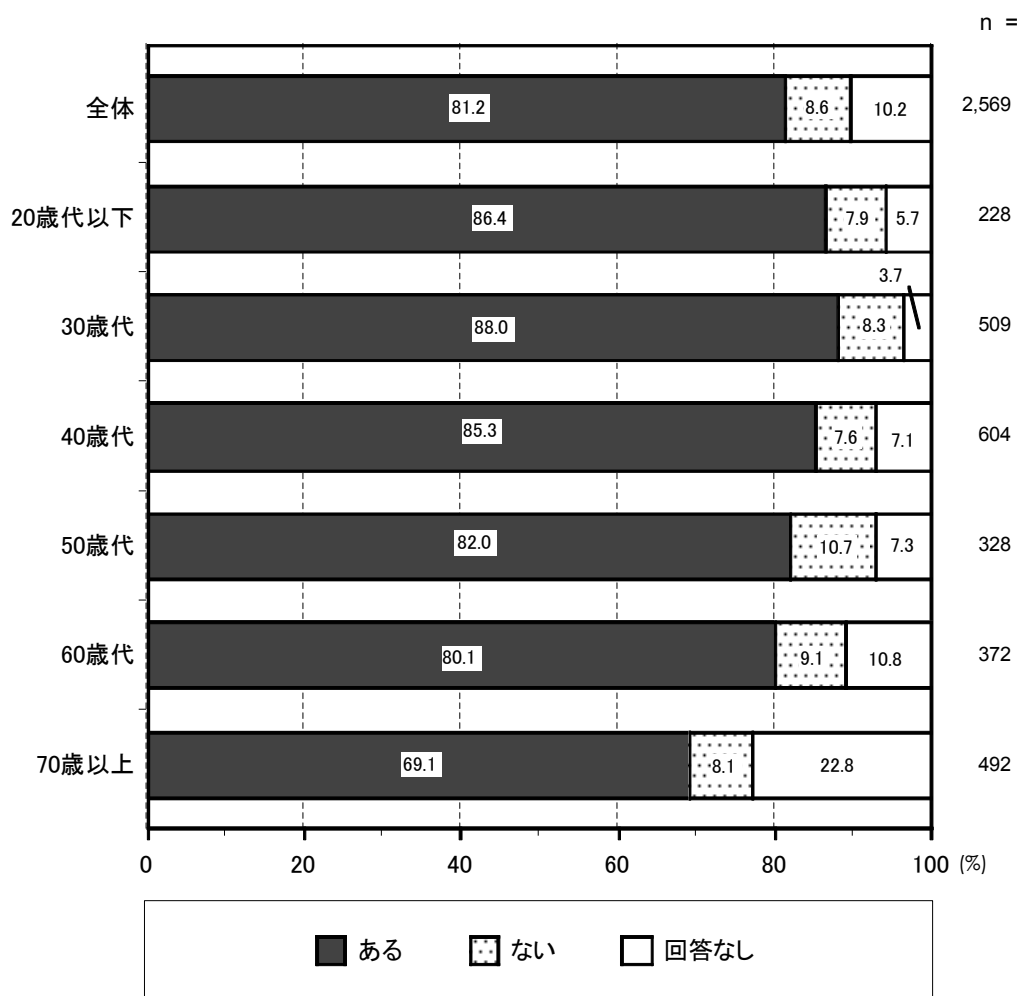
表 3-4-2 長久手の魅力的でない点

分野	魅力的でない点	意見数
健康 (計：34 件)	医療機関、診療科目が不足	23
	検診等の保健が充実していない	7
	その他	4
子育て・教育 (計：215 件)	子育て支援サービスや施設、情報が十分でない	40
	幼稚園・保育園が少ない、十分でない	38
	子どもの遊び場・居場所が不十分	14
	学童保育が少なく、トワイライトがない	39
	学校の教育内容や教育水準がよいくない	26
	学校教育施設の数や内容、配置がよいくない	45
	その他（保育料が高い、幼稚園のイベントが少ない 等）	13
環境 (計：209 件)	自然が減少している	37
	緑や田畑が減少している	22
	公園が少ない、施設や管理が不十分	25
	騒音がうるさい	15
	街並み景観がよいくない	8
	環境衛生、環境美化が不十分	21
	ごみ対策が不十分	57
	大気、水質汚染や悪臭がある	13
	その他（亜炭鉱の掘削跡がある 等）	11
人や地域のつながり (計：117 件)	近所との付き合い、地域とのつながりが希薄	68
	旧態依然の体質、閉鎖的なところが残っている	43
	その他	6
防災・防犯 (計：149 件)	防災対策が不十分	3
	防災・防犯意識が不十分	37
	防犯対策が不十分	78
	治安がよいくない	15
	交通安全対策が不十分	11
	警察署・交番が少ない	5

分野	魅力的でない点	意見数
福祉 (計：55 件)	高齢者福祉が不十分	18
	障害者福祉が不十分	1
	福祉行政が弱い	19
	福祉に偏りすぎ	8
	高齢パスがない	7
	その他	2
文化・生涯学習 (計：153 件)	文化・学習活動やイベントが少ない	31
	文化施設や生涯学習施設等が不十分	39
	図書館が充実していない	28
	スポーツ施設、内容が不十分	34
	その他（モリコロパーク、文化の家 等）	21
生活インフラ (計：1,317 件)	交通の便が悪い	185
	商業施設が少ない	51
	買い物等生活の利便性が悪い	14
	車がないと不便	61
	公共施設が少ない	8
	都市インフラ整備が不十分	55
	リニモ、Nバス等公共交通機関が不便	274
	道路整備が不十分	166
	急激な都市化が進んでいる	58
	商業施設が増えすぎている	25
	渋滞が多い	285
	地価、家賃が高い	35
	企業、就業場所が少ない	22
	交通量の増加	37
	その他（空き地の管理、区画整理 等）	41
市政運営等について (計：139 件)	市政がわかりにくい、市民の声が反映されない	28
	税金等が高い	67
	行政サービスがよくない	17
	市職員の対応が悪い	9
	その他（市議会議員が多すぎる、市庁舎が古い 等）	18
まちや人のイメージ (計：121 件)	まちに魅力がない	24
	活気がないなどのイメージの悪さ	10
	人口増加・人口減少等	49
	市民のモラルやマナーが悪い	33
	その他	5
その他 (計：39 件)	坂が多い	28
	名古屋市より特典が少ない	2
	その他	9
合 計		2,548

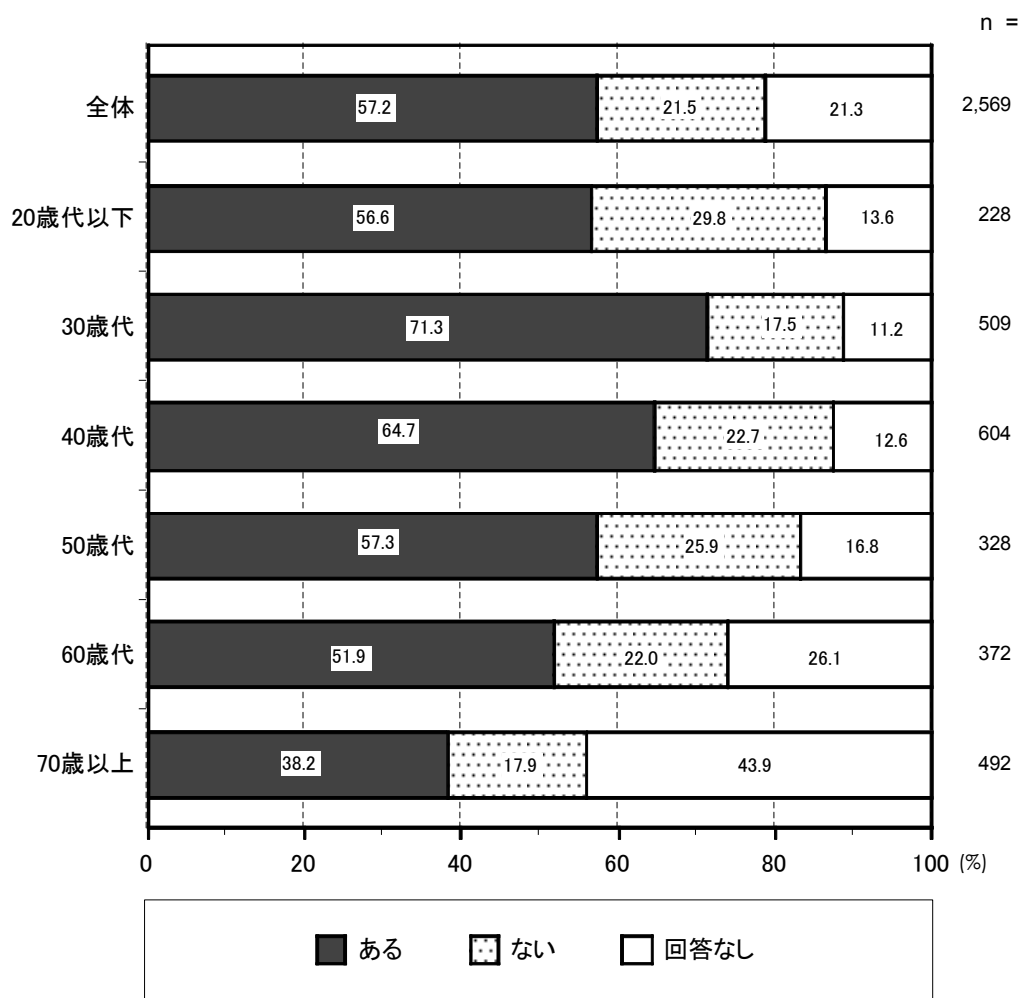
○「魅力的な点」について年齢別にみると、魅力的な点があるという回答は、30歳代（88.0%）で最も多く、次いで20歳代以下（86.4%）で多くなっています。30歳代以降は、年齢が上がるほど魅力的な点があるという回答が少なくなる傾向がみられます。そして、70歳以上では69.1%になります。その分、70歳以上の年齢層では、「回答なし」の割合が多くなっています（図3-4-2）。

図3-4-2 年齢別 「魅力的な点」



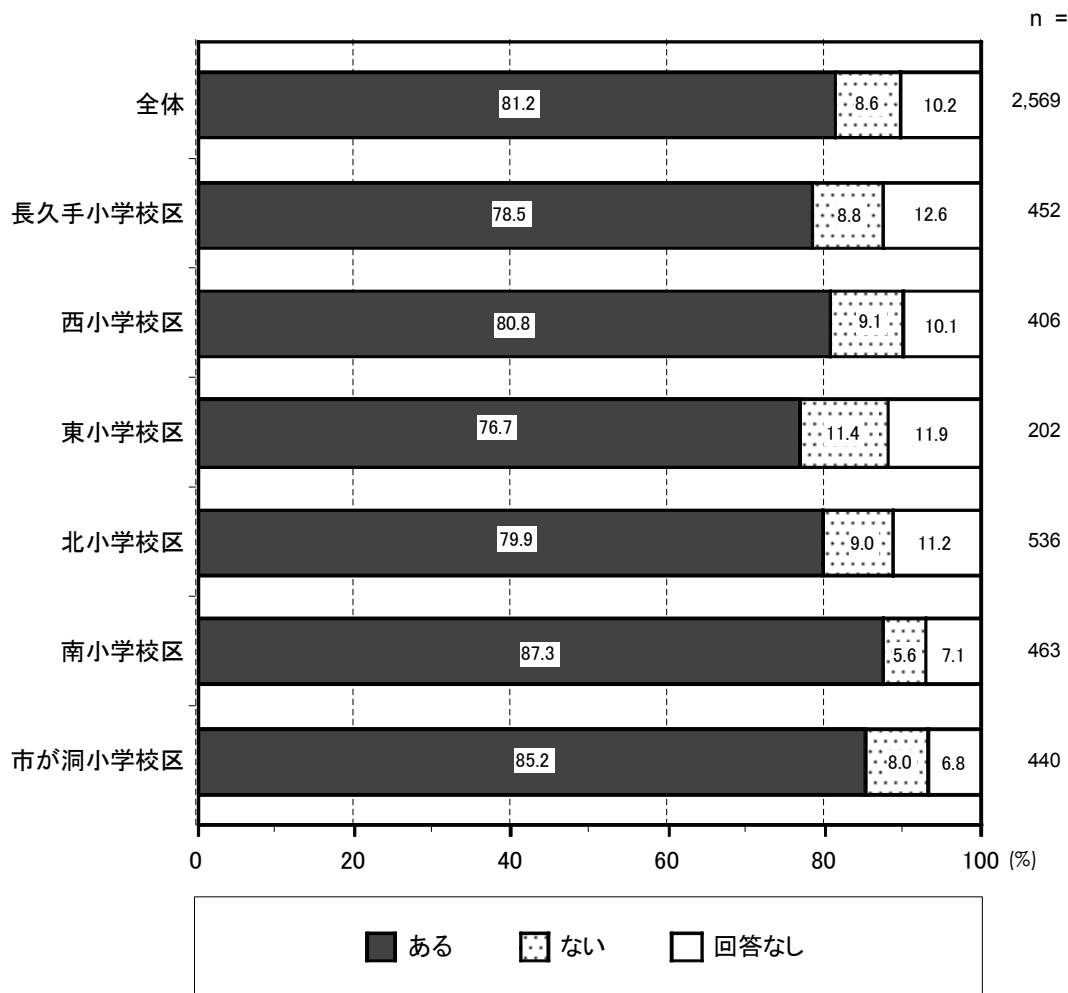
○「魅力的でない点」についても同様に、魅力的でない点があるという回答は30歳代（71.3%）で最も多く、それ以降年齢が上がるほど少なくなる傾向がみられ、70歳以上では38.2%になっています。その分、年齢が上がるほど「回答なし」の割合が多くなっており、70歳以上では43.9%を占めています（図3-4-3）。

図3-4-3 年齢別 「魅力的でない点」



○「魅力的な点」について小学校区別にみると、魅力的な点があるという回答は、南小学校区（87.3%）で全体と比べて若干多くなっているものの、全般的に小学校区の違いによる大きな差はみられません（図3-4-4）。

図3-4-4 小学校区別 「魅力的な点」



○「魅力的でない点」について小学校区別にみると、魅力的でない点があるという回答は市が洞小学校区（69.1％）で全体と比べて多くなっています。逆に北小学校区（50.7％）で全体と比べて若干少なくなっています（図3-4-5）。

図3-4-5 小学校区別 「魅力的でない点」

